ひ　び　ぴ

輕唇音にして單子音の一つ。濁音にはびと爲り重濁音にてびと爲る時は重唇音に變ず清音のひが詞の中音又は末音に來る時は多く音便にていと發音する事を常とす。

ひ　ひの濁音。

び　びの重濁音。

ぴ　ひの重濁音。

ひ　日(名)　〔一〕朝より夕方まで天にかゝりて地球に光りと熱とを與ふる大圓球。●太陽。●日輪。〔二〕日の光り。又は熱。〔三〕日の神。〔四〕日の光りと熱とを受くる間の時。●ひる。●ひるま。〔五〕一晝夜。廿四時間の稱。〔六〕時。●時代。○「わが若かりし日」「事あらん日」

ひ　火(名)　〔一〕燃えて光りと熱とを發するもの。〔二〕火事。〔三〕火にて焚焚したる食物。〔四〕燈。●あかり。

ひ　氷(名)　〔一〕こほりに同じ。〔二〕氷塊の空より降り來るもの。●雹。●ひさめ。

ひ　檜(名)　木の名。ひのき。

ひ　樋(名)　〔一〕水を通す管。●とひ。●かけひ。〔二〕刀の刃にある溝。又は鞘の中央に同じやうに彫りたる溝。池、堀などの水を流し出だす口。●水門。

ひ　機(名)　機の具。糸を卷きたる管を挾みて左右より投げ入れ横糸を織り出だすもの。

ひ　梭(名)

ひ　婢(名)　召使の女。●下女。●はしため。

ひ　脾(名)　臟腑の名。胃の下部にありて形海綿の如きもの。

ひ　碑(名)　石に刻みたる文章。又は其刻みたる石。●石ぶみ。

ひ　妃(名)　〔一〕きさき。〔二〕御息所。

ひ　妣(名)　死したる母の尊稱。……父を考といふに對して。●先妣。

ひ　緋(名)　色の名。深赤色。

ひ　非(名)　あしき事。●間違ひたる事。●非難。●缺點。

ひ　比(名)　たぐひ。●比較。

び　微(名)　かすかなる事。●わづかなる事。

び　美(名)　美しき事。●よき事。●美麗。●美味。

ひゐ　非違(名)　國家の法律に背く事。

ひいろ　火色(名)　染色の名。少し黄ばみたる赤色。

ひいろゑぼし　卑陋烏帽子(名)　折烏帽子の一種。〔圖〕

ひいばば　曾祖母(名)　ひばゞ。

びいどろ　(名)　硝子の舊名。

ひいれ　火入(名)　炭火を入れて畜ふる器。

ひいづ　秀(自動下二段)　拔け出づる。●すぐれる。

ひいな　(名)　雛に同じ。

ひひぃらぎ　柊(名)　木の名。葉は薊に似て厚く鋭き刺あり花は白くして冬の初頃咲くもの。節分の夜鰯の頭と共に其枝を軒などに刺して祝ふもの。

ひいふっと　(副)　矢を射放す音。

ひいき　贔屓(名)　其人の肩を持つ事。

ひろ　尋(名)　左右の手を兩方へ廣げたるだけの長さ。

ひろひぃのこす　拾遺(他動四段)　侍從の異名を拾遺といふ其文字を直譯せる詞。○夫木「捨てられて木の葉にまじる實なし栗ひろひのこせる秋や經ぬらん」

ひろばし　(名)　諸說あり。〔其一〕平橋の意にて一板橋。〔其二〕一尋ばかりの橋。〔其三〕間を置きならべたる石橋。(萬葉)

ひろがる　廣(自動四段)　ひろまる。

ひろむ　弘(他動下二段)　弘まるやうにする。●ひろまらする。

ひろう　披露(名)　廣く人に知らする事。●ひろめ。●吹聽。●招介。△(動)—披露す。

ひろふ　拾(他動四段)　落ち又は捨てゝあるものを手に取る。●一つゞ取りあぐる。

ひらう　疲勞(名)　つかるゝ事。△(動)—疲勞す。

びろう　尾籠(名)　失禮。●無禮。

びらう　檳榔(名)　木の名。葉の形棕櫚に似て大きく笠、團扇などに製し古は車の屋形に葺きたるもの。熱國に產す。

びろうど　天鵞絨(名)　舶來織物の名。猫の毛皮の如く柔かなるもの。

びらうげ　檳榔毛(名)　御所車の一種屋形に檳榔の葉を葺きて飾りたるもの。古へ貴人の束帶などしたる時に乘りたる正式の車。

ひろぐ　廣(他動下二段)　廣からしむる。●大きくする。

ひろま　廣間(名)　廣き室。

ひろまる　弘(自動四段)　弘くなる。●ひろがる。

ひろまへ（廣前）（名）　佛の前。●貴人の前。

ひろぶた　廣蓋（名）　衣類など載するための箱。又は之に擬して作れる蓋やうの臺。

ひろごる　廣（自動四段）　ひろがるに同じ。

ひろき　從（形）　位階の等級を定むる詞。正の次。○「ひろきみつの位」

ひろめ　廣布（名）　昆布の古名。

ひろめ　弘（名）　〔一〕弘むる事。〔二〕廣告。●披露。●吹聽。

ひろめく　弘（自動四段）　ひろがるに同じ。（枕）

ひろし　廣・弘（形）形狀言ク活）　打ち開けてある。●狹からぬ。●横に長し。

ひろびさし　廣庇（名）　古へ禁中清涼殿にありたる庇の名。天皇の御簾を置かれしところ。

ひば　檜葉（名）　檜の葉。

ひば　干葉（名）　干したる大根の葉。

ひばば　曾祖母（名）　祖父母の母。

ひばち　火鉢（名）　炭火を入るゝ器。金屬製、木製、陶製あり。●火桶。●火爐。

ひばり　雲雀（名）　鳥の名。雀に似て少し大きく全體灰色にして眼の上部と頭と白きもの。春の晴れたる日に空高く飛上がりて絶えず囀り遊ぶ。

ひばりげ　雲雀毛（名）　馬の毛色の名。黄と白との交りたるもの。

ひばな　火花（名）　飛び散る火の粉。

ひばら　（名）　腹の左右。●横腹。

ひばん　非番（名）　役所など出勤の番に當らずして休息する事。

ひはく　飛白（名）　漢字書體の名。かすれたる如き書方のもの。

ひはぎ　（名）　往來の人の衣など引き剥ぐ盜人。●おひはぎ。●ひきはぎ。

ひばし　火箸（名）　火をはさむ箸。

ひばしら　火柱（名）　空中に火の柱の立ちたる如くあらはるゝ赤色の氣。

ひにそひて　日に添ひて（副）　ひにそへてに同じ。

ひにそへて　日に添へて（副）　日毎に加はりて。●日まして。（雅）

ひにっき　日記（名）　日々の雜事を記せる記錄。（御湯殿上の日記）

ひにん　非人（名）　〔一〕罪人。〔二〕乞食。

ひにく 皮肉(名) 皮と肉と。

ひにけに 日に異に(副) 日毎に増さりて。○萬葉「我宿の葛は日にけに色づきぬ」

ひにひに 日に日に(副) 日毎に。●日々に増さりて。

ひほん 秘本(名) 秘藏の書籍。●秘密の本。

ひぼん 非凡(名) 人並に超ゆる事。

ひはう 秘方(名) 人の知らざる法。……藥の調合などにいふ。

ひはふ 秘法(名) 秘事とする祈禱。(佛教)

ひばう 誹謗(名) そしる事。●譏謗。△(動)—誹謗す。

びばうろく 備忘錄(名) 忘れぬために扣へ置く帳面。

びばうじん 未亡人(名) 後家。

ひぼくのまくら 比目の枕(名) 比目魚は雌雄二つの目を並べて水中に住むとて夫婦睦ましく同衾するに喩へていふ詞。○謠曲「比目の枕の上には波を隔つる憂あり」

ひぼくぎょ 比目魚(名) 魚の名。かれひ。

ひぼし 火干(名) 火にて干す事。

ひへい 疲弊(名) 衰ふる事。●弱る事。△(動)疲弊す。

ひへん 目偏(名) 漢字の偏の名。時明などの左の部分。

ひへん 火偏(名) 漢字の偏の名。燃、灯などの左の部分。

ひへぎ 引倍木(名) ひさへぎに同じ。

ひと 人(名) 〔一〕高等動物中の最高級を占むる動物。話し、書き、考へ、道理を知り得るもの。●人間。〔二〕他人。○「人は何とも言はゞ言へ」〔三〕おとな。○「人はなりて後は」

ひと 一(數) いち。●ひとつ。

ひとはな 一花(名) 一つの花。●唯一輪咲きたる花。

ひとばらひい 人拂(名) あたりの人を追ひ拂ふ事。●人を遠ざくる事。

ひとばしら 人柱(名) 古代の俗。水中に埋地を爲し又は橋柱を立つる時。流れて固まらぬを防ぐ爲め人を生きながら埋めて其成功を神に祈る事。

ひとどり 人取(名) 魔物などが人を取り殺す事。又は其物。○著聞「此に人取ありて」

ひとどなり 人と爲り(名) 生れつき。●性質。

ひとどなる 人と爲る(句) 〔一〕生長する。●成人する。〔二〕蘇生する。(源氏)

ひとどの 一殿(名) 殿中悉皆。(榮花)

ひとせ 一年(名) 〔一〕一年間。〔二〕或る年。●先年。

ひとり 一人(名) 唯一箇の人。●いちにん。
ひとり 火取(名) 香爐。
ひとり 獨(副) 〔一〕已れのみにて。〔二〕たゞ。
ひどり 日取(名) よき日を擇ぶ事。
ひとりをとこ 一人男(名) 唯一人持ちたる夫。(蜻蛉)
ひとりだち 一人立(名) 〔一〕同伴者のあるべきものが唯一人にて立ち居る事。〔二〕獨立。●孤立。
ひとりね 獨寢(名) 妻無くして寢る事。
ひとりむし 火取虫(名) 蛾の化したる蛾。燈火を見れば直に集まり來るもの。
ひとりむしゃ 一人武者(名) 唯一人の勇者。(謠曲)
ひとりむすこ 一人息子(名) 唯一人持ちたる息子。
ひとりむすめ 一人娘(名) 唯一人持ちたる娘。
ひとりこ 火取籠(名) 伏籠(ふせご)の一名。
ひとりご 一人子(名) 唯一人持ちたる子。
ひとりごと 獨言(名) 相手の人無きに獨り物言ふ事。又は其言語。
ひとりごつ 獨言(自動四段) ひとりごとする。
ひとりゑみ 獨笑(名) 相手なしに一人にてにこ〳〵する事。(雅)
ひとりひとり 一人一人(名) 〔一〕二人又は多人の間にていづれか其中の一人。●どちらか一人。○源氏「右の大臣もあまた物し給ふ御娘たちをひとりひとりはこゝろざし給ひながら」空穗「我ひとり鶴と松とを見るよりもひとりひとりは君にとぞ思ふ」〔二〕多くある人の一人毎に悉皆。
ひとりずみ 獨住(名) 無妻にて住む事。
ひどる 火取(他動四段) 火にあぶる。
ひとるゐ 一類(名) 一族。
ひとをれ 一折(名) 一返。……舞樂の詞。……をれを見よ。
ひとわろし 人惡し(形。形狀言ク活) 人聞きわろし。●外聞わろし。●見苦し。
ひとわたり 一渡(副) 一通り。●一應。
ひとわらへ 人笑(名) 人に笑はるゝ事。
ひとわき 人分(名) 人によりて差別する事。●不公平。●依怙贔負。(雅)
ひとが 人香(名) 人のにほひ。●人の身に薫き染みたる香のにほひ。(源氏)
ひとかひ 人買(名) ひとあきびとに同じ。
ひとがち 人勝(名) 人の多き事。●多人數。

ひとがた

人形(名)　〔一〕人形。〔二〕御祓する人の身を撫でゝ罪穢を移し川に流し捨つる人形。

ひとかたならず

一方ならず(副)　通常でなく。●並々でなく。

ひとかたひとかた

一方一方(名)　ひとり〳〵の尊稱。(源氏)

ひとがら

人柄(名)　〔一〕其人の品格。●人品。〔二〕人品のよき事。●上品。

ひとかげ

人影(名)　人の影。●人の姿。

ひとかへェり

一返(名)　いっぺん。●一回。

ひとがき

人垣(名)　垣のやうに人の立ち並ぶ事。

ひとがしら

人頭(名)　されかうべ。●髑髏。(和名抄)

ひとかず

人數(名)　人の數。

ひとよ

一夜(名)　〔一〕終夜。〔二〕或る夜。●先夜。

ひとよづま

一夜妻(名)　一夜限の妻。●遊女。

ひとよまつ

一夜松(名)　京都北野社にある松の名。昔し一夜に生ひたりといふ古事によりての名。

ひとよざけ

一夜酒(名)　一夜に釀したる甘酒。

ひとよぎり

一節切(名)　尺八の古名。

ひとよせ

人寄(名)　〔一〕人を呼び集むる事。〔二〕人を集めて演藝など興行する場所。●よせ。

ひとたがへェ

人違(名)　人まちがひ。

ひとだのめ

人頼(名)　他の物が我をして其物を頼に思はしむる事。●他の物からあてにさせらるゝ事。●他の物をのみあてにする事。○信明集「今日の内に否とも諾とも言ひはてよ人頼めなる言なせられそ」萬代「春を待つ梅の立枝に降る雪は人だのめなる花にぞありける」

ひとたのみ

人頼(名)　人を頼にする事。●人に頼む事。

ひとだま

人魂(名)　燐火の風などに吹かれて空中に飛び行くもの世俗之を人間の魂なりと誤想せし故の名。

ひとだまひィ

人賜(名)　〔一〕貴人より物を賜ふ事。又は其賜ふ物品。〔二〕從者に賜ひて乘らしむる車。(雅)

ひとぞう

一族(名)　いちぞく。(源氏)

ひとつ

一(數)(名)　〔一〕二つの半分の數。〔二〕悉皆。●全部。●一圓。〔三〕同等。●同類。●類似。

ひとつば

一葉(名)　草の名。葉は一本づゝ鷹の羽の如く岩陰など濕氣深き所に生じて冬も枯れぬ

もの。

ひとつばし 一つ橋(名) 一本の丸木を渡したる橋。●丸木橋。

ひとつに 一つに(副) 一しょに。●同樣に。●同等に。

ひとつども 一巴(名) 紋の名。玉の一つあるもの。

ひとつなのこと 一緒琴(名) 一絃琴(いちげんきん)に同じ。

ひとつがき 一つ書(名) 一つ〳〵箇條を別けて書く事。

ひとつの 一つの(形) 同樣の。●同等の。

ひとつや 一屋(名) 孤立して一軒立てる家。

ひとづま 人妻(名) 他人の妻。

ひとつまつ 一つ松(名) 孤立して一本立ちたる松。

ひとつぶて 人礫(名) 礫の如く人を投げ飛ばす事。

ひとづて 人傳(名) 他人を以てする傳言。●人の話。

ひとづき 人付(名) 他人への付合。

ひとねろ (名) ろは助辭にて一嶺(ひとね)の意。◎一つの嶺。(萬葉東歌)

ひとなみ 人並(名) 世の人と同じ並。●十人並△(形) 人並の。(副)—人並に。

ひとなる 人馴(自動下二段) 人に馴れ親しむ。

ひとらし (形。形狀言シク活) 人として恥かしく無し。●人間らし。

ひたう 緋桃(名) 桃の一種。花の極めて赤きもの。

ひだう 非道(名) 正理に違ひたる事。●無理。●亂暴。△(形)—非道なる。(動)—非道に。

ひどの (名) 雪隱。●厠。(今物語)

ひどのなさ 人の長(名) にんぢゃうに同じ。

ひどのくに 人の國(名) (一)外國。(二)郡の外の國。●地方。

ひどのひ 人の日(名) 正月七日。●人日(じんじつ)。

ひどく (感) 驚の鳴く聲。……歌には多く人來(ひとて)に掛けてよむ。

ひどぐに 人國(名) 外國。

ひどくち 一口(名) (一)一度に食物を口に入るゝ事。(二)一言。

ひどぐま 人隈(名) 人の居らぬ陰。

ひどぐまごと 人隈事(名) 人の陰に隱してする事。(蜻蛉)

ひどくさ 人草(名) あをひとくさに同じ。

ひどくさもの 一種物(名) 歌の會などに菓子、酒、肴など一種づゝ趣向して持ち寄る事。○輔親集「同じ頃藏人所の人々一種物して參れとい

へるに菓子十種を山吹にまぜて添へたり」

ひとや 人屋(名) 罪人を入るゝ家。●牢屋。●獄。

ひとやり 人遣(名) 〔一〕人を使に遣る事。〔二〕我心より はせず人にひかされてする事。○新拾遺「人やりにあらぬものから恨むるは身のことわりも思ひ知らずや」

ひとま 人間(名) 人の居らぬ間。

ひどけい 日時計(名) 〔一〕盤上に針を立て其針の日にうつる影にて時を計る器械。〔二〕日影の加減にて時を計る事。

ひとふで 一筆(名) 一筆にて書く事。●簡單に書く事。

ひとごろし 人殺(名) 人を殺す事。又殺したる人。

ひとごと 人事(名) 己れに關係なき事。

ひとごとば 人言(名) 他人の言語。●世人の言語。

ひとごのかみ 首長(名) 上古一部落の長。●酋長(紀)

ひとごころ 人心(名) 〔一〕人間の心。●人情。〔二〕他人の心。〔三〕生氣。

ひとごこち 人心地(名) 人たる心。●生氣の感覺。

ひとへ 人込(名) 人の集りて込み合ふ事。●雜沓。●混雜。

ひとへ 一重。單(名) 〔一〕重ならざる事。〔二〕簡單なる事。〔三〕男子裝束の下に着る一種の衣。〔圖〕(四)女子裝束の下に着る一種の衣。……十二一重を見よ。〔五〕ひとへもの。〔六〕花の單瓣なる事。……八重の對。

ひとへに 單に(副) いちづに。●簡單に。●たんに。

ひとへごころ 單心(名) 純粹の心。●淡泊な心。●いちづの心。

ひとへぎぬ 單衣(名) 〔一〕裏を附けざる衣。〔二〕男女裝束の下に着る一種の衣。

ひとへもの 單物(名) 裏を附けざる夏着の衣服。

ひとて 一手(名) 一人の力。●一まとめ。

ひとで 人手(名) 他人の手。●他人の力。

ひとあきびと 人商人(名) 人の子を奪ひて賣買する營業者。近古行はれたる惡風俗。●人買。

ひとざま 人狀(名) 人の樣子。●人品。

ひとさし 一差(名) 舞曲の一番。○謠曲「一さし御舞ひ候へ」

ひとさしゆび 人差指(名) 手の拇指の隣の指。●食指。

ひときは 一際(名) 一層。●一入。

ひときゃうキョウ 一京(名) 京都中。(蜻蛉)

ひとめ 人目(名) 他人の見る事。

ひとめ 一目(名) 一度だけ見る事。

ひとめ 人目(名) 古代物語の名。但し世に傳はらず。(枕)

ひとめかし (形。形狀言シク活) 人間らし。●人間並である。(雅)

ひとめかす (他動四段) 人めかしむる。●人間並に入る〻。(枕)

ひとめく (自動四段) 人間らしくあるる。●人間に似て居る。●人間並になる。(雅)

ひとみ 瞳(名) 眼球の中心なる黑き點。

ひとみ 一身(名) からだ中。

ひとし 均。等(形。形狀言シク活) 同一である。●平等である。●よく似たる。

ひどし (形。形狀言ク活) 甚だし。●强し。

ひとじち 人質(名) 契約に違はざる證として妻子など預くる事。

ひとしほ 一入(名)(副) 一層。●一際。●一段。

ひとしほごろも 一入衣(名) 染汁を一度かけて染めたる衣。薄き色のもの。○夫木「山藍の一しほ衣色そへてかざしにほふ花櫻かな」

ひとしれず 人知れず(副) 他人に知られず已れ一人にて。△(形)—人しれぬ。(雅)

ひとしなみに 等並に(副) 同樣に。●同等に。●同一に。

ひとひ 一日(名) 〔一〕月の最初の日。又中旬下旬の最初の日。〔二〕終日。〔三〕或る日。●先日。

ひとびとし 人々し(形。形狀言シク活) 人として恥かしくなし。●人間らし。

ひともしごろ 火燈頃(名) 火を燈す時刻。●暮方。

ひぢ 臂。肱。肘(名) 手の中間屈折する處。

ひぢ 泥(名) どろ。

ひぢぢ 曾祖父(名) 祖父母の父。

ひぢちか 臂近 馴々しき有樣。●人つきのよき有樣(形)—ひぢ〻かなる。(副)—ひぢ〻かに。○源氏「頭つきけはひあてにけだかきものからひぢ〻かに愛敬づき給へるけはひ」

ひぢりこ 泥(名) ひぢに同じ。どろ。(和名抄)

ひぢりき 篳篥(名) 雅樂の樂器。吹物の一つ。横笛の半位の長さの管に葦の舌をはめ之を口に入

れて竪に吹くもの。〔圖〕

ひぢりめん 緋縮緬(名) 緋の色に染めたる縮緬。

ひぢをる 臂折(自動四段) 臂の如く折れ曲がる。○枕「臂折りたる廊」

ひぢがね 臂金(名) 肘壺に差し入るゝ折れ釘。

ひぢかさあめ 臂笠雨(名) 臂を頭に被きて笠に代用するほどの俄雨。

びぢょ 美女(名) 美しき女。

ひぢゃぢょうぎ 樋定木(名) 溝の付きたる定木。

ひぢつぼ 臂壺(名) 針の耳の如き穴ある釘。之を柱などに打ち付け別に戸に付けたる臂金をこれに差し入れて開き戸の開閉を自在にし又は戸締の用に供するもの。

ひぢつき 臂突(名) 物書く時など左の臂の下に敷く小さき蒲團。

ひぢつき 臂付(名) 臂の榛。

ひぢまくら 臂枕(名) 臂を枕に代用する事。

ひぢまき 臂卷(名) 釧(くしろ)の一名。(和名抄)

ひぢゅうだい 非重代(名) 重代の臣ならぬもの。(正統記)

ひぢもち 臂持(名) ひぢつき。(源氏)

ひれりょう 肥料(名) こやし。●こえ。

びりゃりょう 檳榔(名) びらうに同じ。

びりゃりょうのうらなし 檳榔の裏無(名) 檳榔の葉にて作りたる草履。○太平記「びりゃうのうら無しをめされ」

びりゃりょうげ 檳榔毛(名) びらうげに同じ。

びりん 比隣(名) 隣。

びりん 鄙吝(名) 物を惜しむ事。●しはき事。●やぶさか。●けち。

ひりふ (他動四段) ひろふのの古言。

ひりゅうづ 飛龍頭(名) 食品の名。油揚の一種。

ひる 書(名) 〔一〕太陽の地球を照らす間の時。〔二〕一日の眞中。

ひる 蛭(名) 虫の名。形蚰蜒に似て赤黑く水に住むもの。好みて人の血を吸ふ。

ひる 蒜(名) 草の名。葱に似て一層の臭氣あるもの。食用となる。

ひる (他動四段) 大小便、屁などを放つ。

ひる 干(自動一段) かわく。

ひる 嚏(自動一段) くさめする。●はなひる。

ひる 簸(他動一段) 箕にて扇ぐやうにしつゝ物の塵などを拂ひ去る。

ひるい 晝寢(名) ひるね。(雅)

ひるね 悲涙(名) 悲しみの涙。

ひるね 比類(名) たぐひ。●同樣のもの。

ひるかひイ 蛭喰(名) 腫物の上に蛭を置きて膿血を吸はする事。

ひるがほム 晝顏(名) 蔓草の名。夏の頃朝顏に似て薄桃色の花咲くもの。朝咲きて夕方萎むを性とす。

ひるがへる 飄。翻(自動四段) (一)裏が表になる。(二)ひら〳〵と靡き飛ぶ。(三)急に變化する。

ひるがへす 飄。翻(他動四段) ひるがへらしむる。

ひるね 晝寢(名) 日の中に寢る事。

ひるむ (自動四段) 勢の挫くる事。●たゆむ。

ひるのこ 蛭の子(名) ひるこ(一)に同じ(歌詞)

ひるま 晝間(名) 日中。

ひるまき 蛭卷(名) 鎗、長刀、鞭などを藤にて間を置きて細かく卷く事。蛭の卷付きたるに似たる故の名。

ひるけ 晝食(名) ひるめし。●午飯。

ひるご 蛭(名) (一)伊非諾、伊非冊尊の御子。生れて三年になるまで足立たざりしかば葦船に載せて流し捨てられし神。(二)神の名。惠比須。

ひるさがり 晝下(名) 正午過。一時二時三時の頃。

ひるめ 日霎。晝目(名) (一)天照大神の又の御名。(二)神樂の曲名。

ひるめし 晝飯(名) 正午に食する飯。

ひるしゃな 毘盧遮那(名) 佛の名。大日如來。(佛教)

ひを 氷魚(名) 魚の名。琵琶湖に產して色白く小さきもの。冬に至れば身の自由を失ひ流れて宇治川に下るを宇治の里人待ち受け網代にて捕る。

ひおどし 緋縅(名) 鎧の一種。緋色の札にて縅したるもの。

ひをり 引折(名) (一)折目正しき晴の裝束。○台記「今日右大將衣冠紅の引折を出だす」(二)右近

の馬場の眞手結。○散木「長き根の花の秋にかをるなり今日や眞弓のひをりなるらん」

ひをりのひ

引折の日(名)　伊勢物語に「右近の馬場の日をりの日むかひに立てたりける車に女の顔の下簾よりほのかに見えければ」といふ文あり。此詞に就きては古來諸説ありて一定せず。其確實に近きものを擧げて示さん。袖中抄に曰く「右近馬場は一條より大宮の方をいふ。それより東の方は左近の馬場なり。五月三日左近荒手結(あらてつがひ)。四日右近の荒手結五日左近の眞手結。六日右近の眞手結にして此眞手結の日すなはちひをりの日なり。眞手結の日は射手の近衛舍人褐(かち)の尻を前ざまに引きたをりて前に挾む故にいふ」又近藤芳樹の説には。ひをりの日は引折の日といふ事にて折目正しき裝束を着るべき晴の日をいふ。右近の馬場にては四日と六日と射禮あり。六日の方をいへりと云ふ。

ひおほひ

日覆(名)　日光を隔つる爲めに覆ふもの。●ひよけ。

ひおほば

曾祖母(名)　ひばゞ。

ひおほぢ

曾祖父(名)　ひぢゞ。

ひをん

微溫(名)　溫度の低き事。●ぬるい事。

びおん

微音(名)　小さき聲。

びおん

美音(名)　よき聲。●うつくしき聲。

ひをむし

蜉(名)　虫の名。朝生れて夕には死ぬといふはかなき虫。(和名抄)

ひあふぎ

檜扇(名)　(一)檜の薄板を多く重ぬて糸にて綴ぢ合はせたる扇。古へ貴族裝束の時に持ちたるもの。板數男は二十五枚。女は三十九枚を定とす〈圖〉(二)草の名。葉は百合に似て平たく重なり合ひたるさま檜扇を開きしに似たるもの。花は夏の頃百合の小さきが如くにて黄ばみたる茶色に咲く。

ひをけ

火桶(名)　(一)桶形の火鉢(二)轉じてはたゞの火鉢。

ひわ

鶸(名)　鳥の名。雀より小さくして全體青黄色に頭翼尾黑く胸は玉子色なるもの。

びは

枇杷(名)　木の名。冬の半ば白き花咲きて夏の初め丸く黄色なる實を結ぶもの。實は鈴なり

に多數一處に生じて味甘し。

びはワ　琵琶(名)　樂器の名。形茄子に似て平たく四筋の糸を掛けて膝の上に抱へ撥にて彈くもの。

びはワぼふシ　琵琶法師(名)　琵琶を彈くを業とする僧體の盲人。

ひわちゃ　鶸茶(名)　染色の名。萌黃を帶びたる茶色。

ひわり　日割(名)　日數に割り當つる事。

ひわりど　檜割戸(名)　檜を割りて作れる戸。(神樂歌)

ひわりご　檜破子(名)　檜にて造りたる破子(わりご)。

ひわる　干割(自動下二段)　乾きて裂くる。

ひはワだ　檜皮(名)　〔一〕檜の皮。屋根などに葺くもの。〔二〕檜皮色。

ひはワだいろ　檜皮色(名)　黑みを帶びたる紅色。

ひはワだぶき　檜皮葺(名)　檜皮を屋根に葺く事。又は其葺きたる屋根。

ひはワだし　檜皮師(名)　檜皮葺を職とする人。●屋根屋。

ひはワづ　ひは〳〵したる事。●虛弱。●柔弱。(形)—ひはづなる。(副)—ひはづに。(雅)

びはワのぢん　枇杷の陣(名)　左兵衛府の異名。◎枇杷の木のありし故の名。

ひはワやか　ひは〳〵したる有樣。●弱々しき有樣。(形)ひはやかなる。(副)—ひはやかに。

ひはワひはワ　(副)　弱々しく。●折らば折れそうに。(又)ひはひはと。

ひか　非家(名)　其專門にあらざる家。……武の家に非る人の武藝に長じたるを非家のほまれなどいふの類。

ひが　彼我(代)　彼と我と。●他人とわれと。

ひかり　光(名)　〔一〕光る事。又は其物。●光線。〔二〕威光。〔三〕眞理。●道。(基督教)

ひかりのかげ　(名)　光陰の文字の直譯。(謠曲)

ひかりもの　光物(名)　空中に光を放ちて飛ぶもの。……人魂、流星の類。

ひかる　光(自動四段)　照りかゞやく。●目にまばゆく見ゆる。

ひがおぼえ　僻覺(名)　覺ゑ違ひ。

ひがよみ　僻讀(名)　讀み間違。

ひかた　干潟(名)　海中にて汐の引きたる處。

ひかた　日方(名)　坤の風。●西南の風。

ひがら　日雀(名)　鳥の名。四十雀に似て小さきもの。

ひがら　日柄(名)　曆の上に現はれたる日の吉凶。

ひからぶ　(自動上二段)　乾きてから〳〵になる。

ひかん

脾疳(名)　小兒の病氣の名。食慾のみ進みて身體の日々に痩するもの。

ひがん

彼岸(名)　〔一〕佛教にて迷(生死)を此岸に喩へ悟(涅槃)を彼岸に喩へて云ふ。其間を佛教といふ船にて渡し達せしむるは佛の力なり。○謠曲「すなはち彼岸に到らんこと。一葉の舟の力ならずや」〔二〕春分と秋分との日を中央にして其前後七日間に行ふ佛の祭。又は其祭を行ふ間の季節。

ひがむ

僻(自動四段)　心の曲がる。●ねぢける。●筋道に背く。●すねる。

ひがむ

僻(他動下二段)　僻ましむる。

ひがんばな

彼岸花(名)　曼珠沙花の一名。秋の彼岸の頃に咲くもの。

ひがんのちゅうにち

彼岸の中日(名)　秋分又は春分の當日。

ひがんざくら

彼岸櫻(名)　櫻の一種。春の彼岸前後に咲くもの。

ひかふ

控。扣(自動下二段)　進まずに留まる。●何か用はなきかと注意しつゝ持つ。

ひかふ

控。扣(他動下二段)　〔一〕引き留むる。〔二〕引き付くる。●引き付けて置く。〔三〕記し置く。

ひがのこ

緋鹿子(名)　緋の鹿子染。

ひかく

比較(名)　くらぶる事。△(動)―比較す。

ひがくし

日隱(名)　日覆に同じ。

ひかげ

日影(名)　日の光。

ひかげ

日陰(名)　物に隔てられて日光の直射せぬところ。

ひかげ

日蔭。女蘿(名)　〔一〕苔の一種。深山、濕地などに生じ美しく清き綠色にて蔓の如く長く地上に蔓ひ回るもの。小枝ありて全體すべて鬚の如き葉にて覆はる。常に松の枝などにも懸りて下がり居る故又さがり苔の名あり。〔二〕日蔭鬘に同じ。

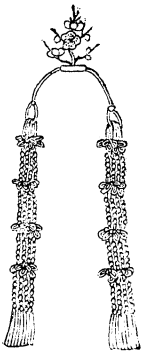
ひかげかづら

日蔭鬘(名)　古へ神事(特に大嘗會、新嘗會)の時祭官の冠(小忌着用の時)に飾として結び垂らしたるもの。上古は生の日蔭を用ひ後世は日蔭糸を以て之に代用す。

ひかげのいと

日蔭糸(名)　日蔭鬘として用ふる糸。白糸又は青糸を總角に結びて左右に八筋或は十二筋づつ垂らし冠の巾子に附くるもの。

…左右の糸の合せ目



ひかげのかづら　日蔭蔓(名)　ひかげかづらに同じ。

ひかげぐさ　日蔭草(名)　日蔭に同じ。(歌詞)

ひがこと　僻言(名)　間違ひたる言語。●詭り。

ひがこと　僻事(名)　筋道に違ひたる事。

ひかへ　控。扣(名)　〔一〕扣ふる事。〔二〕書き留め。●筆記。●備忘錄。

ひかへばしら　控柱(名)　すべて物の倒れかゝりたるを支ふる柱。

ひかへり　日歸(名)　一日の中に往來する事。

ひがさ　日傘(名)　道行く時に日除のためにさす傘。

ひかき　火掻(名)　火を掻き廻す道具。

ひがき　檜垣(名)　檜の板にて作りたる垣。常に網代に編む。

ひがめ　僻目(名)　見違ひ。

ひがみ　日髮(名)　日々髮を結ふ事。

ひがみ　僻(名)　僻む事。

ひがみみ　僻耳(名)　聞き間違。

ひがし　東(名)　〔一〕日のいづる方。〔二〕東より吹く風。〔三〕東本願寺の略。

ひがしおもて　東面(名)　家の東向の處。

ひがしやま　東山(名)　京都の東山。

ひがひがし　僻々し(形。形狀言シク活)　ひがみたる有樣。●間違多き有樣。

ひがもの　僻物(名)　僻みたる人。●變人。

ひょいと　(副)　不意に。●突然に。(俗)

ひよどり　鵯(名)　鳥の名。鳩よりも少し小さくして全體灰色のもの。

ひより　日和(名)　晴れたる天氣。

ひょっと　(副)　もしも。●萬一。(俗)

ひょっとこ　(名)　不細工なる顏。●醜き顏。思ひもかけぬ有樣。●不意。●案外。(形)—ひょんな。(副)—ひょんに。(俗)

ひょん

ひよう　日傭(名)　一日人を傭ふ事。又は其傭はるゝ人。

ひょう　雹(名)　空より降り來る氷塊。●氷雨。

ひよう　費用(名)　入費。

ひょうヒヤウ　平(名)　漢字四聲の一つ。—韻を見よ。

ひゃうへう 評(名) 評判。●批評。

へうへう 豹(名) 獸の名。熱帶の產にして形も性質も略ぼ虎に似たるもの。色は濃黃色にして黑き斑點あり。

へうへう 表(名) 〔一〕意見を記して官に奉る書。〔二〕錯雜したるものを一覽に便利なる樣に書き列ぬたるもの。

へうへう 俵(名) 〔一〕たはらに同じ。〔二〕俵に入りたるものを數ふる詞。

へうへう 瓢(名) ひさごにて作り酒を入るゝ器。●瓢簞。

へうへう 標(名) めじるし。

びやうびやう 鋲(名) 釘の一種。頭の平たく大なるもの。

べうべう 廟(名) 先祖の靈屋。

べうべう 秒(名) 時計の秒針(せとんばり)が一運動する間の時間。●一分の六十分の一。

べうべう (助動) べくの音便。○源氏「車より落ちぬべうまどひ給へば」

びやうゐん 病院(名) 病者を治療するところ。

ひやうらう 兵糧(名) 軍隊の食料。

ひやうばん 評判(名) 世間のうはさ。●よしあしの取沙汰。

へうはく 漂泊(名) 水に漂ふが如く何處を當ともなくさまよふ事。△(動)—漂泊す。

びやうにん 病人(名) 病氣に罹りたる人。●病者。●やまうど。

ひやうほふ 兵法(名) 戰の法。●軍法。●へいほふ。

べうばう 渺茫 はても見えぬ程廣き有樣。(形)—渺茫たる。(又)—渺茫と。

ひやうと (副) 矢の弦を離るゝ音。●ひゅうと。

びやうどう 平等(名) 同等。●均一。●公平。

べうだう 廟堂(名) 朝廷。

ひやうぢやう 兵仗(名) 兵器。

ひやうぢやう 評定(名) 評議して定むる事。

ひやうでう 平調(名) 神樂の調子の名。

ひやうぢやうしよ 評定所(名) 鎌倉時代役所の名。罪人の糺明を掌るところ。

ひやうぢやうしゅう 評定衆(名) 鎌倉時代の役名。軍政に與かるもの。

へうちゅう 標柱(名) 頭書にしたる。書物の註釋。

ひょうか 氷河(名) 地理學上の詞。高山又は極寒の地にて河流の氷りかたまりたるもの。

びゃうか 病家(名) 病人の有る家。

ひょうかい 氷海(名) 氷りて居る海。……南氷洋。および北氷洋。

へうだい 表題(名) 題目。●外題。●見出し。

へうたん 瓢簞(名) 〔一〕夕顔の一種。球を二つ重ねたるが如き實のなるもの。其種を拔き中をうつろにして酒を入るゝ器に作る。〔二〕瓢簞にて作りたる酒器。

へうそ 瘭疽(名) 病の名。指の甚しく痛むもの。

へうさっう 表裝(名) 表具に同じ。

へうそく 平仄(名) 平と仄と。……韻を見よ。

びゃうなん 病難(名) 病氣の難澁。

ひゃうらん 兵亂(名) 戰爭。

ひゃうぐ 兵具(名) 戰爭の道具。●武器。

へうぐ 表具(名) 軸物などの緣に紙、布などを貼りて裝飾する事。

ひゃうぶ 兵部(名) 兵部省の略。

びゃうぶ 屏風(名) 襖を二枚或は六枚など連れて疊み得る樣にしたるもの。物の隔などに立て或は室内の裝飾とす。古は出產、婚姻、年賀など祝の席に六枚折一双(十二枚)に十二箇の畫をかき和歌を添へたるものを立つるを習とせり。

ひゃうふっと (副) 矢の弦を離るゝ音。

ひゃうぶしょう 兵部省(名) 上古官廳の名。八省の一つ。すべて軍政を掌るところ。今の海陸二軍省に當たる。官吏は卿、輔(大、少)亟(大、少)錄(大、少)あり。●つはものゝつかさ。

ひゃうご 兵庫(名) 〔一〕朝廷の兵器を納め置く庫。〔二〕兵庫寮の略。〔三〕女の結髮の一種。遊女などの結ふもの。

ひゃうごれうう 兵庫寮(名) 官廳の名。兵庫の武器の出納保管を掌るところ。官吏は頭、助、允、屬あり。

ひゃうゑ 兵衞(名) 兵衞府の略。

べうえい 苗裔(名) 子孫。●後裔。

ひゃうゑふ 兵衞府(名) 上古官廳の名。禁中を守り行幸の行列を正し宮中を巡檢する事を掌るところ。官吏は督、佐、(權)尉(大少)志(大少)府生あり。

びゃうてい 病體(名) 病氣の有樣。●容體。

びゃうざ 病者(名) 病人。

へうさつ 表札(名) 門前に掲げ出す姓名の札。

ひゃうざん 氷山(名) 地理學上の詞。極寒の地に山の如き氷塊の海中に浮べる事。

ひゃうぎ 評議(名) 相談。△(動)—評議す。

びゃうき 病氣(名) 身體に異狀を生ずる事。●やまひ。

へうきん 剽輕(名) 口輕。●氣輕。△(形)—へうきんな。(副)—へうきんに。(俗)

ひゃうし 拍子(名) 〔一〕音樂歌曲の音響の時間を測る尺度。〔二〕拍子を示す爲めの樂器。……雅樂にては太鼓、鉦鼓、鞨鼓。および笏拍子。能にては大小鼓、太鼓などの類。〔三〕合圖。〔四〕機會。●場合。●とたん。

へうし 表紙(名) 書籍の上紙。

ひゃうじ 平字(名) 詩學上にて平の文字。……仄字の對。

ひゃうじゃうしゃう 平聲(名) 韻を見よ。

びゃうしゃう 病牀(名) 病人の寢たる床。

びゃうしゃう 病症(名) 病氣の實。●病氣。

びゃうしん 病身(名) 常に病氣がちの身體。●多病。

ひゃうしぎ 拍子木(名) 二個の長方形の材。物の合圖などする時打つもの。

へうじゅん 標準(名) 物の程度を示す目じるし。●目安。

びょうびょう 渺渺(副) 〔一〕わづか。●物の數にも入らぬほど。〔二〕はての知れぬ程大なる事。……(又)—渺々と。(形)—渺々たる。

へうせつ 剽竊(名) 他人の文、歌などを盜みて我物とする事。△(動)—剽竊す。

びゃうせん 兵船(名) いくさぶね。●軍艦。

へうぜん 飄然(副) 舟の風に漂ふが如き有樣。●ぶらぶら。(又)—飄然と。

ひゃうす 評(他動サ變) 批評をする。●評判する。

ひよく 比翼(名) 〔一〕二羽の鳥が各其翼を並ぶる事。〔二〕比翼の鳥。

ひよく 肥沃(名) 土地のよく肥ゆる事。△(形)—肥沃なる。

ひよくのとり 比翼鳥(名) 支那古代にいへる想像の鳥。形鳧の如く色一羽は赤く一羽は青く各一目一翼にして二羽相並び一身の如くなりて飛ぶといふもの。……夫婦の離れがたき

契の喩によく用ひらる。

ひよけ 日除(名) 日覆(ひおほひ)に同じ。

ひよけ 火除(名) 火事を防ぐ物。

ひよみ 日讀(名) 日を數へ繰る時に用ふる事の稱へ。動物の鳥に對して酉を日よみのとりと呼ぶの類。

ひた 引板(名) 鳴子の板。

ひだ 襞積(名) 扇を疊みかけたるが如く作り付けたる衣類の折目。

びた 鐚(形) 錢の粗惡なるもの。

ひたひィ 額(名) (一)眉の上部の廣きところ。(二)冠、烏帽子の名所。額に接する部分。(三)古へ女の額髮を蔽ふために附けたる飾り。○新古今「后に立ち給ひける時令泉院の后宮の額を奉り給ひけるを」

ひたひィ 干鯛(名) 鹽にして干したる鯛。

ひたひィがね 額金(名) 武具の一つ。鉢卷の額の處に鐵を入れたるもの。

ひたひィがみ 額髮(名) 額の處の髮。●前髮。

ひたひィつき 額付(名) 額の有樣。

ひたいく 檜大工(名) 檜皮師(ひはだし)に同じ。

ひたひィぼし 額烏帽子(名) 古へ官民擧りて烏帽子を着けたる時代三角の紙など前から見れば烏帽子と見ゆるやうに作り額に當てゝ略式に用ひたるもの。〔圖〕

ひたひィじろ 額白(名) 馬の毛色の名。額の白きもの。

ひたと (副) ひしと。●ぴったりと。●みしりと。

ひたちおび 常陸帶(名) 古代の俗。正月十四日鹿島神社に詣でゝ男女互に戀人に關する神慮を伺ふ時に用ひたる帶。奥儀抄に曰く「常陸の國鹿島明神の祭の日。彼處の女緣を占はんとて苧を帶にして。一つには懸想する男の名を書き。一つには我名を書きて神前にて祝詞を申して。帶折り返して名をば隱し。末を木に結び合はするなり。惡かるべき緣なれば離れ〳〵結ばれ。よかるべきには掛帶のやうに結びつながるゝ。それを肩に懸けて歸るとぞ」

ひたちうた　常陸歌(名)　風俗歌の曲名。

ひだり　左(名)　〔一〕右の反對。人の手にて箸、筆など持たぬ方。〔二〕雅樂にて左方。……さはうを見よ。〔三〕左大臣左近衛など左の字のつきたる官。

ひだりどもゑ　左巴(名)　紋の名。左方に卷きたるもの。

ひだりをり　左折(名)　折烏帽子の一種。端を左の方に折りて作れるもの。……源氏の一族は家例として之を用ひたり。

ひだりのうまのつかさ　左馬寮(名)　さまれう。(和名抄)

ひだりのみさとのつかさ　左京職(名)　さきやうしよく。(和名抄)

ひだりまへェ　左前(名)　〔一〕衣服の前を右の方を外にして着る事。〔二〕物事の逆になる事。●是までの勢と反對になる事。

ひだりき　左利(名)　左の手にて物事を器用にする事。又は其人。

ひだりもじ　左文字(名)　其裏面より見たる形の文字。

ひたる　浸(自動四段)　水につかる。●濡るゝ。

ひだるし　(形。形狀言ク活)　空腹なる有樣。●ひもじい。

ひたおもむきに　直趣に(副)　ひたすら其方にのみ心の趣く有樣。●たゞ一心に。○源氏「ひたおもむきに二心なきを見れば」

ひたおもて　直面(名)　直接に顏を合はする事。●考慮なく直接にそれと顯はす事。△(形)―ひたおもてなる。(副)―ひたおもてに。○源氏「ひたおもてには如何でか顯はし給ほん」

ひたかぶと　直兜(名)　一軍打揃ひて甲冑する事。

ひだかみのくに　日高見の國(名)　土地高く打開けて日を空高く仰ぎ見るの意。◎皇居の地の美稱。●大和の國の美稱。(祝詞式)

ひたたれ　直垂(名)　〔一〕武家の禮服。地は紗、生絹、精好などにて上下同地同色の物を用ひ。前は方領にて袖にツュあり菊綴あるもの。袴は長袴なるを常とすれど後世は多く半袴に作る。〔圖〕〔二〕夜具の名。夜着、かいまきなどの如く袖のあるもの。

ひたたく（自動下二段）　取締なくばっとしてある。○源氏「海士の家だに稀になど聞き給へど人しげくひたゝけたらん住居はいと本意なかるべし」

ひたたくみ　飛彈工（名）　飛彈の國より出づる大工。……古は延喜式民部省の處に「凡飛彈の國毎年工百人を貢す」など見えて上手の大工は皆此國より出づる事に爲り居たり。

ひたつ　肥立（自動四段）　產婦、初生兒、病人などの經過よく日が立つ。

ひたづかひィ　頓使（名）　行きたるのみにて返事持て來ぬ使。●片だより。（記）

ひたら　干鱈（名）　干したる鱈。

ひたん　悲歎（名）　なげき。

ひたのたくみ　飛彈工（名）　ひたたくみに同じ。

ひたぐろ　直黑（名）　一面の黑色。

ひたくれなゐ　直紅（名）　一面の紅色。（六帖）

ひたやごもり　直屋籠（名）　ひたすら家に引き籠る事。（雅）

ひたまひィのふだ　日給の札（名）　にっきふのふだに同じ。（空穗）

ひたふる　一向。●ひたすら。●一圖。（形）―ひたふるなる。（副）―ひたふるに。

ひたふるごころ（名）　一圖に進む心。

ひたがゞふゞ　直甲（名）　一枚板にて作りたる琵琶の甲。

ひたごころ　直心（名）　ひたすらなる心。（蜻蛉）

ひたき　鶲（名）　鳥の名。雀に似て大きく能く囀づるもの。

ひたき　火燒（名）　上古燈火の代りに用ひたる篝火。

ひたきや　直黃（名）　一面の黃色。（夫木）

火燒屋（名）　禁中東宮、后宮等にて燈火の代りに衞士の夜中燒火をする小家。

ひたみち　直路（名）　一筋路。●一直線。

ひたしろ　直白（名）　一面の白色。（空穗）

ひたしもの　浸物（名）　食品の名。野菜類の菜を湯にて煮たるもの。●したしもの。

ひたもの　一向（副）　ひたすら其物だけ。○枕「是に白からん處ひたもの入れて持てこ。穢なげならんは搔き捨てゝ」

ひたす（他動四段）　養育する。●そだつる。

ひたす　浸（他動四段）　水に入るゝ。●濡らす。

ひたすら　只管（副）　一向に。

ひれ　鰭(名)　魚類の背と脇などにありて水を泳ぐ時櫂(かい)の如き用をなすもの。

ひれ　領巾(名)　上古女の項の處に附けたる布絹などの飾り。後世は裳の一部として縫ひ附けたる一種の飾り。〈圖〉

ひれい　比例(名)　〔一〕二物を比較して其割合の等しきを見る事。〔二〕數の比較を定むる算術。

ひれい　非禮(名)　無禮に同じ。

びれい　美麗(名)　うつくしき事。●うるはしき事。△(形)—美麗なる。(副)—美麗に。

ひれかくるとものを　領巾懸伴緒(名)　女官の一部々々の長たる人。……たすきかくるとものをを參考せよ。(祝詞式)

ひれつ　鄙劣(名)　心、行の鄙しき事。△(形)—鄙劣なる。(又)—鄙劣の。(副)—鄙劣に。

ひれふる　鰭振(自動四段)　魚の泳ぐ。

ひれふす　(自動四段)　平たく地に這ひ伏す。

ひれゑぼし　平禮烏帽子(名)　何烏帽子にても其頂を折りて着る事の稱〈圖〉

ひそ　砒素(名)　化學原素の一つ。砒石の有せるもの。

びそ　鼻祖(名)　元祖。

ひそか　窃。密。竊。私　隱れ忍びてする有樣。●ないしよ。●秘密。(形)—ひそかなる。(副)—ひそかに。

ひそむ　潛(自動四段)　忍び隱る、。

ひそむ　顰(自動四段)　眉に皺を寄する。●泣顔する。

ひそむ　潛。顰(他動下二段)　ひそましむる。

ひさッう　皮相(名)　外面にあらはれたるだけの見に。

ひさッう　非想(名)　非想天の略。(佛教)

ひさう　秘藏(名)　ひざうに同じ。△(動)—ひさうす。

ひざッう　秘藏(名)　大事にして愛する事。△(動)—秘藏す。

ひざッう　非常(名)　ひじゃうに同じ。△(形)—ひざうなる。(副)—ひざうに。

ひさッうでん　非想天(名)　無色界中四天の一つ。(佛教)

ひそく　秘色(名)　〔一〕染色の名。空色の類。薄青きもの。〔二〕青磁の陶器。

びそく　鼻息(名)　鼻にてする呼吸。

ひそやか　そそかに同じ。(形)—ひそやかなる。(副)—ひそやかに。

ひそまる　（自動四段）　靜かになる。●ひっそりとする。●隱るゝ。

ひそみ　（名）　眉を顰むる事。

ひそひそ　（副）　ひそかに。●人に知られぬやうに。●小聲にて。（又）―ひそ〳〵と。

ひつ　櫃（名）　〔一〕箱の一種。○「辛櫃」「折櫃」「小櫃」「鞍櫃」「御衣櫃」「具足櫃」〔二〕飯を入るゝ器。●おはち。

ひつ　弼（名）　官名。彈正臺の次官。

ひづ　秀（自動下二段）　ひいづに同じ。（字鏡）

ひづ　漬（自動上二段）　濡るゝ。●ずぼぬれになる。

ひづ　漬（他動下二段）　濡らす。●ずぼぬれにさする。

ひついで　日次（名）　日並。（雅）

ひつらう　筆勞（名）　筆にて書く勞力。

ひっぱる　引張（他動四段）　引く。●引きつくる。

ひっぱふ　筆法（名）　〔一〕字を書く法則。〔二〕筆勢。

ひっぺぎ　引倍木（名）　ひきへぎを見よ。

ひっとう　筆頭（名）　其文書の書きはじめ。

ひつだう　筆道（名）　字を書く道。●書道。

ひづち　（名）　刈りたる後に再び自生する稱。○古今「刈れる田に生ふるひづちの穗に出でぬは世を今更にあきはてぬとか」

ひつりょく　筆力（名）　書きたる書畫の勢。

ひつよう　必用（名）　是非入用なる事。

ひつだん　筆談（名）　文字を書きてする談話。

ひっそり　（副）　靜に。●しんと。（又）―ひっそりと。

ひっそく　逼塞（名）　德川時代武士の刑罰。門を閉ぢて籠居し書間は他人の出入をも許さゝるもの。

びづら　（名）　みづらに同じ。○榮花「御即位に大極殿に渡らせ給へるに御びづら結はせ結へるほど」

ひつく　干盡へ（自動四段）　乾きて水分の全く無くなる。●ひっつく。

びっくり　副（名）　驚く有樣。

びっくりかへる　（自動四段）　上下又は表裏が轉倒する。

ひっくりかへす　（他動四段）　上下又は表裏を轉倒する。

ひつけ　火付（名）　火を付けて人家を燒く事。又は其人。

ひづけ　日付（名）　物に記し付けたる其月日。

ひっけん　筆硯（名）　〔一〕筆と硯と。〔二〕字を書く仕事。

ひっぷ　匹夫（名）　官位無き男●通常の男。

ひっかう　筆耕（名）　筆にてする賃仕事。

ひってき 匹敵(名) よき相手。

ひっさん 筆算(名) 數字を筆にて書き計算する算術。

ひっさぐ 提(他動下二段) 手に下げ持つ。

ひつき 日月(名) 〔一〕空行く日と月と。〔二〕經過する日と月と。

ひつき 日次(名) 天皇日々の供御。又は其料の物。○夫木「御狩するたかのを山に立つ雉子や君が千年のひつきなるらん」

ひっき 筆記(名) 〔一〕筆にて書き記す事。〔二〕書きとめ。●扣。●聞書。……△(動)—筆記す。

ひつぎ 柩(名) 人の死體を入れて葬むるもの。●棺。

ひつぎ 日嗣(名) 天照大神より受け傳へて繼がせ給ふ天皇の御位。

ひっきゃうきょう 畢竟(副) つまる處は。●つまり。

ひづめ 蹄(名) 牛馬などの脚の爪。一脚に一箇或は二箇付きたるもの。

ひっし 筆紙(名) 筆と紙と。

ひっし 必死(名) 事成らざれは必す死ぬといふ決心。△(形)—必死の。(副)—必死に。

ひつじ 羊(名) 〔一〕獸の名。性溫和にして毛長く牡には角あり。其毛は刈られて織物に作らる。〔二〕基督教にては信者を云ふ。……基督を羊牧に比するを以て。

ひつじ 未(名) 十二支の一つ。……未の時は午後の二時。未の方角は西南の南によりたる方。

ひつじかひ 羊牧(名) 〔一〕羊を飼養する事。〔二〕耶蘇基督。〔三〕基督教の教師。

ひつじのあゆみ 羊歩(名) 人生の遲緩なるが如くに見えて一歩々々と死に近づきつゝあるの喩へ。佛書に。譬如旃陀羅驅羊就屠所歩々近死地。人命復過是とあるより來る。

ひっしゃ 筆者(名) 〔一〕文字、畫など書く人。〔二〕文章の作者。

ひつじさる 未申。坤(名) 方角の名。西南。

ひっせい 筆生(名) 筆記する役の人。

ひっせい 筆勢(名) 筆力に同じ。

ひっせん 筆洗(名) 筆を洗ふための陶製の器。

ひっせき 筆跡(名) 書きたる文字。

ひね (名) 遲く實のる稻。●おくて。

ひねりいだす (他動四段) 辛うじて考へ出だす。

ひねりぶみ (名) 〔一〕圖。●おみくじ。〔二〕卷きて上下を折りたる手紙。

ひねる 撚(他動四段) 〔一〕指頭にて綾る如き働をなす。〔二〕辛うじて考へ出だす。

ひねくる (他動四段) 指先にてひねり廻す。

ひねもす 終日(名) しゅうじつ。●其日一日。

ひねもす 終日(副) しゅうじつ。●一日。(又)—ひねもすに。

ひねずみ 火鼠(名) 鼠の一種。熟地の産にて其皮を火に入れても燒けぬもの。

ひな 雛(名) 〔一〕鳥の子。●ひよこ。〔二〕小兒の弄ぶ人形。●雛人形。〔三〕すべて小さきもの。●ひよこ。

ひな 鄙(名) 都ならぬ地方。●田舍。

ひなにんぎゃうギョウ 雛人形(名) 小さきもの。●三月三日に飾らるゝ人形。

ひなどり 雛鳥(名) 鳥の子。

ひなば 火繩(名) 竹の削り屑にて綯ひたる繩。銃などの火を付くるに用ふるもの。

ひなばづつ 火繩筒(名) 火繩の火を付けて放つ銃。

ひなが 日永(名)・春夏の日の永き事。又は其時季。

ひながた 雛形(名) 見本。●模型。

ひなかざり 雛飾(名) 雛人形を飾り付くる事。女子のある家には三月三日に行ふ例。

ひなた 日向(名) 日光の直射する處。

ひなたぼこり (名) 日向にて身を暖むる事。

ひなづる (名) 星の名。螢惑星。(夫木)

ひなづる 雛鶴(名) 鶴の子。

ひなん 非難(名) 缺點を批評する事。●あしくいふ事。△(動)—非難す。

びなん 美男(名) 容貌の美しき男子。

びなんかづら 美男葛(名) 蔓草の名。五味葛(さねかづら)の一名。

ひなのみやこ 鄙の都(名) 國府の所在地。

ひなや 雛屋(名) 雛を入れて飾る家。雛の住居に模造せる家。(雅)

ひなまつり 雛祭(名) 世俗三月三日に行ふ雛の祭。

ひなぶ 鄙(自動上二段) 鄙めく。●田舍ぶる。

ひなぶり 夷振。夷曲(名) 〔一〕上古雅樂上の歌曲の名。(紀)〔二〕狂歌。

ひなあそび 雛遊(名) 〔一〕古は女子の雛人形を弄ぶ事。〔二〕後世は三月三日雛人形を携へ辨當など持ち行きてする女子の遊び。

ひなさき 雛頭(名) 立烏帽子の名所。肩の上部の尖出せるところ。

ひなぎぬ 雛衣(名) 産衣。(うよぎぬ)

ひなみ 日並(名) 日々。●毎日。

びなし (形。形狀言ク活) びんなしの略。(雅)

ひら 平(名) (一)平面。△(形)—ひらなる。(副)—ひらに。(二)平椀。

ひら 枚(名) 薄く平たき物を數ふる詞。○「紙一ひら」「疊三ひら」

びら (名) 垂れ下がりたる紙又は布。

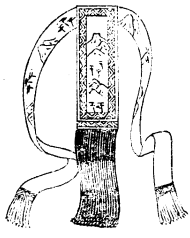
ひらばり 平張(名) 庭上野外などにて事を行ふ時に設くる假屋の代用。棟なくして幕のみ引きめぐらしたるもの。

ひらばかま 平袴(名) 襠の低き半袴。

ひらに 平に(副) ひたすらに。●まっぴら。

ひらり (副) ひら〳〵。●身輕く。(又)—ひらりと。

ひらを 平緒(名) 束帶の時太刀の帶革を通して腰に結ぶ平打の組緒。前面には繡などの飾を爲したるものを垂る。〔圖〕



ひらか 平瓦(名) 淺く平たき土器。

ひらがる (自動四段) 平たくなる。

ひらがね 平鉦(名) 佛具の名。平たく作りて鐘木にて打ち鳴らす鉦。

ひらがな 平假名(名) 假名の一種。漢字の草體を更に崩して優美に作りたる文字。……例へば以をいとし呂をろとし波をはとし仁をにとせるの類。

ひらたし 平(形。形狀言ク活) (一)高低の無き有樣。●厚みの薄き有樣。(二)普通なる有樣。

ひらつら 平面(名) 平たき顏。(宇治)

ひらなべ 平鍋(名) 淺く平たき鍋。

ひららかに (副) 平たく。●平面に。(落窪)

ひらむ 平(自動四段) 平たくなる。●薄くなる。

ひらむ 平(他動下二段) 平たくする。●薄くする。

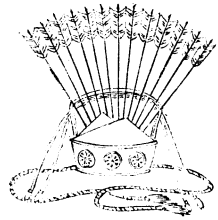
ひらく 開(他動四段) 開かしむる。●明くる。

ひらく 開(自動下二段) (一)明くる。●分る、。●廣がる。●始まる。(二)花の咲く。(三)退く。●退軍する。●落つる。……陣中の忌詞。(四)歸る。●退散する。……婚禮の忌詞。

ひらくび 平首(名) 首の平たき處。(萬葉)

ひらや 平屋(名) 二階ならぬ家。

ひらやなぐひ 平胡籙(名) 胡籙の一種。平たく作れるもの。……壺胡籙を參考せよ。〔圖〕



ひらまつ 平松(名) 平たく這ひ廣がりたる松の木。(兼盛集)

ひらぶ 平(自動四段) ひらむに同じ。○發心集「掌を合せて敬ひ拜みてひらび給ひぬ」

ひらゑぼし 平烏帽子(名) 平たく作りたる折烏帽子の總名。

ひらで 平手(名) 指を廣げたる掌。

ひらで 平手。枚手。葉盤(名) 青柏の葉を綴ち合はせて平たく作りたる神祭の食器。大嘗會の時供物を盛るもの。〔圖〕

ひらてん 樋螺鈿(名) 飾太刀の一種。鞘の樋の處を螺鈿にしたるもの。

ひらあしだ 平足駄(名) 平たく作りたる足駄。(宇治)

ひらざや 平鞘(名) 鞘の平たき刀。柄は白鮫作りしにて外出などの時差したるもの。

ひらき 開(名) 〔一〕すべて開く事。〔二〕開戸。

ひらきばしら 開柱(名) 橋の欄干の兩端の柱。

ひらきど 開戸(名) 蝶番ひなどにて開くやうに作りたる戸。●つまど。

ひらめ 平目(名) 魚の名。鰈に似たるもの。

ひらめかす 閃(他動四段) ひらめかしむる。

ひらめかす 平めかす(他動四段) 平たくする。○枕「里王の片つ方にしどけなく摺りひらめかし勞おほきになりたるが」

ひらめく 閃(自動四段) ひら〳〵する。●きら〳〵と光る。

ひらしゃうぞく 平裝束(名) 直衣姿(なほしすがた)の服裝。

ひらひら (副) 紙木葉などの飜へる有樣。(又)—ひら〳〵と。

ひらもとゆひ 平元結(名) 元結の一種。厚き紙を切りて平たく作りたるもの。

ひらせ 平瀬(名) 平面なる川の瀬。(萬葉)

ひん 貧(名) 貧しき事。●貧乏。

ひん 品(名) 其物に自然に備はる性質。●しな。●品

格。●品位。

ひむ 秘(他動下二段) 秘する。●秘密にする。

びん 鬢髪(名) 〔一〕左右の耳の上部にある髪。〔二〕特に之を膨らして結ひたるもの。

びん 瓶(名) 〔一〕水を入れて用ふる器。陶製、鐵製および硝子製あり。〔二〕特には硝子製にて西洋酒など入るゝもの。●フラスコ。

びん 便(名) 〔一〕たより。●ついで。●都合。〔二〕音信。

ぴん 針(名) 英語より來る。◎〔一〕留針。〔二〕束髪を結ふに用ふる針。

ひんね 品位(名) ひん。●くらゐ。●品格。

ひむろ 氷室(名) 氷を貯へ置く室。……上古は土の穴今は或は石造。

ひむろやま 氷室山(名) 氷室の作りてある山。

ひむろもり 氷室守(名) 氷室の番人。

びんぼふ 貧乏(名) 貧しき事。△(形)—貧乏なる。

びんぼふがみ 貧乏神(名) 貧乏なる家を見て住む神。●人をして貧乏に陷らしむる神。

びんぼふどくり 貧乏德利(名) 德利の一種。最も粗造下品なるもの。

ひんぢょ 貧女(名) 貧しき女。

ひんか 貧家(名) 貧しき家。

ひんかく 賓客(名) 珍らしき客。●客人。

ひんかく 品格(名) 品位。●人品。

ひむかし 東(名) ひがしの古言。ひむかしに同じ。

びんだたら 鬢多々羅(名) 古代歌曲の名。五節などに歌ひたるもの。

ひんさう 貧相(名) 貧しげに見ゆる人相。

びんづら (名) 鬢の樣子。●鬢。

びんつけ 鬢附(名) 鬢の髪に塗り附くる油。

びんなし 便無(形)形狀言ク活) たよりなし。●不都合な。●ふびんな。●いぢらし。●はづかし。(二雅)

ひんく 貧苦(名) 貧しきために受くる苦。

ひんぐう 貧窮(名) ひんきう。●貧困。(平家)

びんぐき 鬢莖(名) 鬢の髪筋。●鬢先。

びんぐし 鬢櫛(名) 鬢を解き付くるための櫛。

ひんけつ 貧血(名) 身體に血液の少き事。

ひんぷ 貧婦(名) 貧しき女。

ひんぷ 貧富(名) 貧しきと富みたると。

びんぶく　（名）　古へ女の額を蔽ふため他の髪毛にて作り垂らしたる一種の飾り。〔圖〕

びんごおもて　備後表（名）　疊の表の一種。備後の國の産にて滑なるもの。

ひんこん　貧困（名）　貧窮。●貧乏。

ひんかう　品行（名）　行ひ。●行狀。

びんざさら　拍板。編木（名）　田樂の舞人などが手に持ちて拍ち合はせつゝ舞ふ爲めの具。小さき板を數枚重ね色彩り飾りて作りたるもの。〔圖〕

びんざし　鬢差（名）　女の髪を張り出さするために鯨、鼈甲などにて鍋づるのやうなる形に作り髪の中に包み込むもの。天明寛政の頃專ら行はれたり。

びんぎ　便宜（名）　たより。

ひんきう　貧窮（名）　貧。●貧困。

ひむし　火虫。蠻（名）　火取虫に同じ。●

びんせふ　敏捷（名）　物の悟りの早き事。●すばしこき事。△（形）―敏捷なる。（副）―敏捷に。

ひんぴやう　品評（名）　可否の批評。●品定め。△（動）―品評す。

ひんせん　貧賤（名）　貧しくして賤しき事。△（形）―貧賤なる。（副）―貧賤に。

ひんせき　擯斥（名）　寄せ付けずして退くる。△（動）―擯斥す。

ひう　（他動下二段）　肉などを小さく薄く切り取る。（記）

ひうち　火打。火燧（名）　火を打ち出す石。および金。

ひうちいし　火打石（名）　火を打ち出だす石。

ひうちば　火打羽（名）　翼の先に火燧金の如く出でたる羽。（徒然）

ひうちがね　火打金（名）　火を打ち出だす金。

ひうちぶくろ　火打袋（名）　火燧の道具を入るゝ袋。上古は必ず旅人の携へたるもの。

ひのいへ　火家（名）　火宅（くわたく）に同じ。（佛教）

ひのはかま　緋袴（名）　貴女の着

る緋色の袴。〈圖〉

ひのべ 日延(名)　豫定の日を延ばす事。

ひのと 丁(名)　干支の第四に當たるもの。●てい。

ひのおまし 日御座(名)　晝間天皇の御座ある室。●清涼殿。

ひのよそひ 日裝束(名)　ひるのさうぞくに同じ。

ひのよこ 日横(名)　日光を横に受くる處。●南北。

ひのたて 日縱(名)　日光を縱に受くる處。●東西。

ひのためし 氷樣(名)　古へ正月元日に氷室にある氷の有樣を主上へ奏聞する事。其厚薄によりて年の豐凶を卜するもの。

ひのさうぞく 日裝束(名)　晝間着して朝廷に出仕する裝束。即ち束帶。

ひのくち 樋口(名)　水を落す處。

ひのくるま 火車(名)　燃ゆる火を積みたる車。地獄にて罪人の載せらるゝもの。(佛教)

ひのまる 日丸(名)　紋の名。太陽の形を朱にて畫がきたるもの。今は專らわが國の旗章に用ふ。

ひのこ 火子。火粉(名)　火の燃ゆる時飛び散る小さき火。●火花。

ひのこと 火事(名)　くわじ。●出火。(蜻蛉)

ひのこし 火輿(名)　貴人葬送の時香爐を載する輿。

ひのえ 丙(名)　干支の第三に當たるもの。●へい。

ひのて 火手(名)　火の燃ゆる勢。火事に云ふ。

ひので 日出(名)　〔一〕朝日の出づる事。又は其時刻。〔二〕ますます繁榮に向ふ勢。

ひのあし 火脚(名)　ひあしに同じ。

ひのさわぎ 火騷(名)　火事の騷動。

ひのき 檜木(名)　木の名。葉は丸くして扇など廣げたる如く平たき枝をなすもの。材は最も高等のものとして用ひらる。

ひのきぶたい 檜舞臺(名)　〔一〕檜木にて造りたる能舞臺。〔二〕轉じてはすべて本舞臺すなはち晴がましき經驗場の意に用ふ。

ひのめ 日目(名)　目に觸るゝ日の光。

ひのみやぐら 火見櫓(名)　火事を望むため高く造りたる櫓。

ひのし 火熨斗(名)　火を入れて布などの皺を伸ばすに用ふる金屬製の器。

ひのした 日の下(名)　天下。

ひのもと 火元(名)　火事を出だしたる最初の家。

ひのもの 火物(名)　火にて煮焚したる食物。

ひく

引(自動四段)　〔一〕退く。●あとじさりする。〔二〕長く延ぶる。〔三〕地の上に長く垂るゝ。

ひく

引(他動四段)　〔一〕手を伸ばして物を我方へ寄する。〔二〕延ばす。〔三〕綱を附けて物を進まする。〔四〕車を進まする。〔五〕導く。〔六〕贈物にする。〔七〕弓を射る。〔八〕(彈)樂器の絲を鳴らす。〔九〕(碾)挽臼を廻して物を粉にする。〔十〕(挽)鋸にて切る。

びく

比丘(名)　梵語。〔一〕僧。〔二〕誤りては比丘尼の略。●尼。

ひくひゝどり

火食鳥(名)　熱帶地方に住む鳥の名。駝鳥の種類にて脚短く頭上に瘤の如き突出あるもの。

ひくらゝうど

非藏人(名)　官名。藏人所にありて殿上の掃除等を爲し殿上人に使役せらるゝ役。◎藏人に同じく昇殿はすれども公事を奉行せず禁色を著けず藏人にして藏人に非ずとの意。

ひぐろみ

日黑(名)　肌膚の日に燒くる事。(長門本平家)

びくに

比丘尼(名)　梵語。◎尼。

ひぐち

火口(名)　火の燃え出す口。●火を附くる口。●火を導く口。

ひぐるま

日車(名)　草の名。日廻草(ひまはりぐさ)。

ひくらくえふ

飛花落葉(名)　散る花と落つる木の葉と。……多くはかなき喩などにいふ。

ひくん

被管(名)　其官廳の下に管理せらるゝ役所。又は役人。●下官。

ひぐわん

悲願(名)　佛の慈悲なる誓願。

ひぐわし

干菓子(名)　水分を含まざる菓子。……餅菓子に對して。

ひくれ

日暮(名)　日の暮方。●夕暮。

ひくつ

卑屈(名)　奮發力の無き事。●氣力の弱き人。△(形)—卑屈なる。(又)—卑屈の。(副)—卑屈に。

ひぐらし

日暮(名)　其日を暮らす事。●終日。

ひぐらし

蜩(名)　蟬の一種。夏の末より秋の初にかけて夕暮の頃木陰などに涼しげに鳴くもの。

ひくて

引手(名)　引き寄する手。○「びく手あまた」

ひくし

低(形。形狀言ク活)　〔一〕高からぬ。●丈の短き。〔二〕尊からぬ。●卑し。(副)　物に怖れ震ふ有樣。(又)—びくゝと。

びくびく

ひや

火屋(名)　死人を燒く小屋。●火葬場。

ひやかに（副）　ひやゝかにに同じ。

ひやかす　冷（他動四段）　〔一〕ひやす。●つめたくする。〔二〕買はずに見物のみする。●嘲弄する。

ひやむぎ　冷麥（名）　食物の名。切麥を氷に冷やしたるもの。

ひやの（名）　西洋樂器の名。大なる箱の中に針金の絲を張り兩手の指にて押し鳴らすもの。●洋琴。

ひやく　非役（名）　役なしに居る事。

ひゃく　百（數）　〔一〕十の十倍。●もゝ。〔二〕多くの數。

ひやく　冷（自動下二段）　冷やかになる。

ひゃくろく　白綠（名）　繪具の名。綠青の白きもの。

ひゃくはちぼんなぶ　百八煩惱（名）　佛教にて云ふ前世今世來世すべての煩惱の種類。

ひゃくにちこう　百日紅（名）　草の名。夏の頃小さき球に似たる紅、白の花咲くもの。

ひゃくにちぜき　百日咳（名）　小兒病の名。咳出でゝ數十日間治せざるもの。

ひゃくどまゐり　百度參（名）　神佛參詣の一法。一日中に百度くりかへして拜する事。

ひゃくぢゅつ　白朮（名）　草の名。蒼朮の一種。色の白きもの。

ひゃくかにち　百箇日（名）　人死してより百日目。又は其日の佛事。

ひゃくだん　白檀（名）　木の名。熱帶產にて香料になる木。

ひゃくれん　白蓮（名）　白き花の咲く蓮。

ひゃくさう　百姓（名）　ひゃくしやうに同じ。（雅）

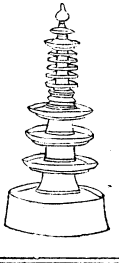
ひゃくざう　白象（名）　毛色の白き象。

ひゃくゞくわん　百官（名）　官人の總稱。

ひゃくまん　百萬（數）　萬の百倍。

ひゃくまんべん　百萬遍（名）　念佛を百回稱ふる事。

ひゃくまんたふ　百萬塔（名）　奈良朝の頃朝廷にて作り全國の佛寺に納め給ひし無量の小塔。各其中に活字にしたる經卷を入れたり。〔圖〕



ひゃくぶ　百部（名）　草の名。蔓のあるものと無きものとの二種あり。花は內紫、外薄綠にて夏の頃一日に一輪づゝ咲くもの。

びゃくこ　白虎（名）　毛色の眞白なる虎。

びゃくゞこ　白狐（名）　毛色の眞白なる狐。

びゃくがう　白毫(名)　佛の三十二相の一つ。白く渦卷きて光を放つ眉間の毛。

びゃくえ　白衣(名)　〔一〕白地の衣服。〔二〕白小袖に差貫の出で立ち。〔三〕袴をはかず着流しの出で立ち。

びゃくさん　白散(名)　藥品の名。屠蘇の種類。正月元日酒に入れ飲むもの。

ひゃくみ　百味(名)　諸種の食物。

ひゃくしゃう　百姓(名)　〔一〕四民の總稱。〔二〕農。

ひゃくじつこう　百日紅(名)　木の名。さるすべりの一名。

びゃくしん　柏槇(名)　木の名。檜に似て横に這ひ廣がるもの。庭木などに用ふ。

ひゃくひろ　百尋(名)　腸の異名。●はらわた。

ひややか　冷　〔一〕つめたさ。●寒さ。〔二〕不熱心。●冷淡。……(形)—ひやゝかなる。(副)—ひやゝかに。

ひやあせ　冷汗(名)　恥ぢ恐れなどする時に出づるつめたき汗。

ひやひや　(副)　冷やかなる有樣。(又)—ひやゝと。

ひやす　冷(他動四段)　冷やかにする。●つめたくする。●さます。

ひま　隙(名)　〔一〕すきま。●あひま。●あひだ。〔二〕暇。●閑暇。〔三〕不和。

ひまち　日待(名)　民間にて行ふ日の神の祭。

ひまはり　日廻(名)　草の名。花は菊に似て大きく黄色にして赤みを帶び日光の方向に從ひて傾くもの。●ひぐるま。

ひまはし　小兒遊戯の一種。火の付きたる線香を順次に持ち廻し之と共にひの字の頭にある詞を唱へて其詰りたるもの若くは火の消え止りに當りたる人を負とするもの。

ひまつり　火祭(名)　火除の祭。

ひまなし　隙無(形。形狀言ク活)　〔一〕いとまなし。●止む間なし。〔二〕すきまなし。●餘地なし。●立錐の地なし。

ひまん　肥滿(名)　肥え太る事。△(形)—肥滿なる。(又)—肥滿の。(動)—肥滿す。

ひまのこま　隙駒(名)　月日の早く立つ事の喩へ。史記に人生一世間。如二白駒過レ隙一とあるより來れる故事。

ひまご　曾孫(名)　孫の子。●ひこ。

ひまし 日增(名) 日數の立つ事。
ひましに 日增に(副) 日毎に增して。
ひまびま 隙隙(名) すきま〳〵。●あひま〳〵。
ひまぜ 日交(名) 一日おき。●隔日。
ひげ 髭。鬚。髯(名) 口の上下近邊に生ふる毛。
ひげ 卑下(名) 謙遜。△(動)—卑下す。
ひげをとこ 鬚男(名) 鬚の多き男。
ひけつ 秘訣(名) 容易に人に授けざる術。●奥の手。
ひけつ 秘結(名) 大便の固結する事。●通じの無き事。
△(動)—秘結す。
ひけつ 否決(名) 否と決定する事。……可決の反對。
△(動)—否決す。
ひけん 鄙見(名) 己れの量見。……人に對して云ふ。
ひけん 披見(名) 封じたるものを明けて見る事。△
(動)—披見す。
ひげこ 鬚籠(名) 編み捨てたる端を長く殘し置きたる
竹籠。中古人に贈る菓物など入れたるもの。
繪の具などにて美しく染めても用ひたり。
びげき 尾擊(名) 追ひかけて擊つ事。△(動)—尾擊す。
ひけし 火消(名) 火を消す事。又は其人。●消防夫。
ひけしつぼ 火消壺(名) 炭火を消して貯ふる壺。

ひふ 皮膚(名) 身體の外皮。●肌。
ひふ 被風(名) 合羽に似たる一種の羽織。
ひふり 火振(名) 夜討などに松明を振り照らして敵の
偵察に行く事。又は其人。
ひぶた 火蓋(名) 小銃の火口を被ふ蓋。
ひぶん 碑文(名) 石に刻み付けたる文章。
ひぶん 非分(名) 分限に越えたる事。
びぶん 美文(名) 美術的の文章。……詩歌などの類。
びふう 美風(名) 賞美すべき風俗。
びふく 微服(名) 貴人が姿をやつして賤夫の如く出で
立つ事。
ひぶくれ 火脹(名) 火傷にて爛れ脹るゝ事。
ひふきだるま 火吹達磨(名) 達磨の形に造りたる小さ
き金屬製のもの。之に水を入れて火の側に
置けば水蒸氣達磨の口より强く出でゝ火を
吹き起す。
ひふきだけ 火吹竹(名) 火を吹き起すための竹筒。
ひふみ 日文(名) 神代文字と言ひ傳へたる一種の字
體。「ひふみよいむなやこともちろらねしき
るゆゐつわぬそをたはくめかうおえにさり
へてのますあせゑほれけ」と續け書きたる

を正式とするもの。……はつまあないちを參考せよ。〈字體は卷首に示す〉

ひぶせ 火防(名) 火ふせぎ。●火難除。

ひこ 孫(名) まご。●うまご。

ひこ 曾孫(名) ひまご。●ひこまご。

ひこ 彦(名) 男子の美稱。

ひご 卑語。鄙語(名) 賤しき言葉。下等社會に通用するもの。

ひごひ 緋鯉(名) 鯉の一種。全身赤きもの。

ひごろ 日頃(名) 數日。●近日。

ひごろ 日頃(副) 數日來。

ひこばえ 蘖(名) 草木の切株又は根などより生ずる枝。

ひこばゆ (自動下二段) ひこばえの生ずる。○新古今「荒山田の去年の大根の古蓬今は春べとひこばえにけり」

ひこぼし 彦星(名) 七夕に祭らるゝ男性の星。●牽牛星。

ひこぢ (代) 夫の尊稱。(記)

ひこり 氷凝(名) 氷の地上岩間などに固まり附きたるもの。

ひこづらふ (他動四段) 引く。●引っ張る。(記)

ひごんぎ 緋金錦。被今綺(名) 古代織物の一種。金襴の類。(源氏)

ひかう 披講(名) 其會にて詩歌の作を朗讀する事。又は其役の人。

ひかう 鼻高(名) 僧の履く一種の沓。革にて作り鼻緒を高く持ち上げたるもの。

ひかう 微行(名) 忍びあるき。

ひこく 被告(名) 訴訟を起されたる人。

ひこえ 孫枝(名) 枝より出づる小枝。(萬葉)

ひこじろふ (他動四段) 引っ張る。●引き摺る。(雅)

ひえ 稗(名) 五穀の一つ。穗は粟よりも小さく實は黍に似て黑きもの。

ひえどり 鵯(名) ひよどりに同じ。

ひえり 日撰(名) 日えらび。(源氏)

びていこつ 尾骶骨(名) 脊推骨の下端。●かめのを。

ひでり 旱(名) 數日間雨の降らぬ事。●旱魃。

ひてん 飛天(名) 天人。●天女。

ひてん 批點(名) 其詩文の妙處を示すため傍に打つ黑點。

ひでん 秘傳(名) 秘密にする傳授。●秘訣。●奥ゆる

し。

ひでんゐん 悲田院(名) 古へ貧民旅人の病者孤兒などを救助したる所。僧侶之を管す。

ひでさごなり 秀郷折(名) 折烏帽子の一種。〔圖〕

ひあい 悲哀(名) かなしき事。●かなしみ。●なげき。

ひあヤひイ 日間(名) 其時までの間の日數。

ひあはッひィ 廂間(名) 相隣れる二つの家の中間。狹くして日光を受けぬ所。

ひあがる 干上(自動四段) 乾きてから〳〵になる。

ひあたり 日當(名) 日の照らす事。

ひあやふッし 火危(句) 夜の番人などの呼びあるく詞。今の火の用心といふに當たる。

ひあぶり 火炙(名) 德川時代の刑罰。火にて燒き殺すもの。

ひあし 日脚(名) 〔一〕太陽の進行。〔二〕日の差す影。

ひざ 膝(名) 股と脛との間の折れ曲がる前面の處。

ひざ 悲者(名) 觀音。(佛教)

ひさい 微細(名) 精細。●精密。△(形)—微細なる。(副)—微細に。

ひさに 久に(副) 久しく。

ひざぼね 膝骨(名) 膝の骨。●膝皿。

ひざかり 日盛(名) 晝の暑き盛り。

ひざがる (自動下二段) 平たく押し潰さるゝ。●へしやがれる。

ひさかた 久方(名) 枕詞より出でゝ◎天。○夫木「久方は手に取るばかりになりにけり、雲のねるてふ寺にやどりて」古今「久方の光のどけき春の日にしづ心なく花の散るらん」

ひさかたの 久方の(枕) 天空日月などの枕詞。

ひざかけ 膝掛(名) 膝に被ひ掛くるもの。

ひさかき 柃(名) 木の名。葉は茶に似て白き花咲くもの。葉を燒きて古人は染物の灰に用ひたり。

ひざがしら 膝頭(名) 膝の先。

ひざつき 膝突(名) 板敷などにて座する時膝に敷く三尺四方の薄緣。

ひざら 火皿(名) 煙管の首の煙草を盛る處。

ひさんぎ 非參議(名) 〔一〕參議の候補者。〔二〕非職の參議。

ひさう ひその處にあり。

ひざのかはッら 膝瓦(名) 膝皿の一名。

ひざのくち 膝口(名) 膝の先。●膝頭。

ひさく 杓(名) 水を汲む器。●ひさご。

ひさぐ 鬻。販(他動四段) 賣る。

ひさぐ 提(他動下二段) 引き提ぐる。●提ぐる。

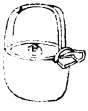
ひさぐ (自動下二段) 潰されて平たくなる。●へしゃげる。○撰集抄「家のひさげたる時」

ひざくら 緋櫻(名) 櫻の一種。色の極めて赤きもの。

ひざまづく 跪(自動四段) 片膝を附きて座する。

ひざまくら 膝枕(名) 他人の膝を枕に代用する。

ひさげ 提子(名) 古へ酒又は粥など盛りたる金屬製の器。銚子、藥鑵などに似たる形のもの。



〈圖〉

ひざがさに 膝太に(副) 膝の太く肥えたる有樣。

ひさご 瓢。瓠(名) へうたんに同じ。杓に造りて用ひし故の名。

ひさご 杓(名) (一)古へ水を汲取るに用ひし器。今の柄杓の類。(二)神樂歌の曲名。

ひさごうり 瓠瓜(名) 烏瓜の一名。

ひざざら 膝皿(名) 膝頭にある皿の如き骨。●膝蓋骨。

ひさぎ 楸(名) 木の名。葉は梓に似て裂目大きく花は胡麻に似て紫の紋あり秋の頃大角豆の如き實の垂るもの。

ひさめ 氷雨(名) 雹。●大雨。

ひさし 庇。廂(名) (一)家の軒に又差出したる軒。(二)母屋の四方にある狹き室。板敷にて侍女などの詰め居るところ。……もやを參考せよ。

ひさし 久(形。形狀言シ〃活) 時間の長さ。

ひさしぶりに 久振(副) 久しき後に。●久しき時を經て。△(形)—久しぶりの。

ひざびゃうし 膝拍子(名) 膝を打ちて音樂の拍子を取る事。

ひさびさ 久々(副) (一)久しく。(二)久し振に。

ひざもと 膝元(名) 膝の下。●其人の近傍。

ひき 蟇(名) 蛙の一種。大きく肥えて薄暗き處に住み好みて小虫を捕り食ふもの。●がま。●ひきがへる。

ひき 蠶員(名) ひいき。

ひき 引(名) (一)引く事。(二)道引。●紹介。(三)退き。●退出。●退去。

ひき 匹。疋(後) (一)鳥、獸、虫、魚を數ふる詞。(二)金錢の稱呼。昔は鳥目十文。今は二厘五毛。

ひぎ　〔三〕織物の稱呼。二反。

氷木（名）　千木を見よ。（記）

ひきゐる　率（他動上一段）　ひきうに同じ。

ひきいれ　挽入（名）　轆轤細工の食器。

ひきいれ　引入（名）　公家にて元服の時冠を着する役の人。

ひきはぎ　引剝（名）　追剝に同じ。

ひきぼし　引干（名）　古代食品の名。海草の干したるもの。○空穗「ひきぼしくだものなど」落窪「みるのひきぼし」

ひきへぎ　引倍木（名）　板引にしたる絹。●ひべき。●ひっべぎ。

ひきど　引戸（名）　溝ありて横に引き明くる戸。

ひきとる　引取（自動四段）　退散する。●退出する。●去る。

ひきちゃ　挽茶（名）　茶臼にて挽きたる粉茶。湯に立てゝ飲むもの。

ひきり　火鑽（名）　〔一〕檜の板に穴を明け之を棒にて摩擦し火を出さしむるもの。神事の時に用ふるもの。〔二〕之を行ふに用ふる具。

ひきり　（名）　餅の名。古へ近江の國より供御に奉りたる商圓の餅。（顯輔集）

ひきりゃうす　引兩（名）　紋の名。丸の中に横に筋二本引きたるもの。

ひきりうす　火鑽臼（名）　火を鑽るに用ふる臼。すなはち其穴の明けてある方の板。……ひきりを見よ。

ひきりぎね　火鑽杵（名）　火を鑽るに用ふる杵。すなはち臼を摩擦する棒。……ひきりを見よ。

ひきおび　引帶（名）　袍、直衣などに締むる小さき帶。

ひきわり　挽割（名）　麥の粗く割りたるもの。米に交ぜて食用とす。●わり。●わりむぎ。

ひきわけ　引分（名）　相撲の勝負決せざる時持として行司より引分くる事。

ひきかふ　引替（自動下二段）　反對する。●相違する。

ひきかふる　引替（他動下二段）　物と物と入れ替ふる。

ひきがへる　蟇蝦（名）　ひきに同じ。

ひきかへす　引返（他動四段）　元に返す。

ひきがき　引柿（名）　柿の澁を衣などに塗る事。○東鑑「引柿の直垂」

ひきょう　比興（名）　〔一〕他の物に喩へて面白く言ひなす事。〔二〕興味をあぢはふ事。●面白がる事。

△(動)—比興す。

ひけふ(キョウ)　卑怯(名)　物を恐れ易き性質。●臆病。△(形)—卑怯なる。(又)—卑怯の。(副)—卑怯に。

ひきょく　秘曲(名)　秘傳の樂曲。

ひきたつ　引立(自動四段)　勢の付く。

ひきたつ　引立(他動下二段)　立たする。●起す。●引張って立たする。●勵ます。

ひきたてゑぼし　引立烏帽子(名)　揉烏帽子の一種。紙にて薄く作り後部の先に尖りあるもの。〈圖〉

ひきだし　引出(名)　簞笥などに箱めて拔き差しの出來るやうに作りたる箱。

ひきれ　挽入(名)　轆轤細工の食器。

ひきつぼね　引局(名)　假に設けたる女官の部屋。

ひきづる　引鶴(名)　渡り居たる鶴の春になりて引き去る事。

ひきつく　引付(自動下二段)　餓に氣絶する。

ひきつけしゃう　引付衆(名)　鎌倉幕府の役名。政所の日記を記錄するもの。

ひきづゑ　引杖(名)　後の手に持ちて引き行く杖。

ひきなほし　引直衣(名)　古へ天皇の御不斷に召したる御直衣。裾長くして地に引くもの。又裾の下がりたるため下直衣(さげなほし)ともいふ。

ひきらか　低き有樣。(形)—ひきらかなる。○宇治、丈ひきらかなる衆の」(副)—ひきらかに。

ひきんぞく　非金屬(名)　金屬ならぬ物體。

ひきう　牽(他動上二段)　引き連る。

ひきうく　引受(他動下二段)　身に受込む。●擔任する。

ひきうま　引馬(名)　德川時代大名の行列又は神事などに鞍に覆をかけて牽き行く馬。

ひきうす　挽臼。碾(名)　臼の一種。二つの石を重れて其間に目を彫り上の石に柄を附け挽き廻して穀を粉に磨り碎くもの。

ひきぐすり　引藥(名)　塗り藥。

ひきやか　低さ有樣。(形)—ひきやかなる。(副)ひきやかに。(雅)

ひきゃく　飛脚(名)　〔一〕遠方に書狀を持ちて使する人。〔二〕飛脚の持てくる書狀。

ひきゃくせん　飛脚船(名)　飛脚用に供する船。

ひきまど　引窓(名)　屋根に明けたる窓。●天窓。

ひきまく　引幕(名)　〔一〕乳を附け横に引きて開閉す

る幕。〔二〕特には芝居に用ふる引幕。上より下すを揚幕(あげまく)といふに對して。

ひきまゆ 引眉(名) 人造にて畫がきたる眉。

ひきまゆ 引繭(名) 獨の蠶にて作りたる繭。

ひきぶた 引札(名) 廣告の紙。

ひきふね 引船(名) 綱にて流れを引き上す船。

ひきごと 引言(名) 例證として引く言語。

ひきごし 引越(名) 轉宅。●轉居。

ひきこす 引越(自動四段) 轉宅する。●轉居する。

ひきて 引手(名) 障子襖など開閉する時手にて持つ所。

ひきで 引出(名) 引出物の略。

ひきてぢゃや 引手茶屋(名) 遊廓に遊ぶ客の案内を業とする茶屋。

ひきでもの 引出物(名) 客への贈物。◎古へは馬など牽き出だして贈りしより起れる詞。

ひきあひ 引合(名) 〔一〕賣買の相談。〔二〕證人となる事。

ひきあはせ 引合(名) 〔一〕檀紙の一種。色薄黑き故薄墨色ともいふ。大小によりて大引合、小引合の名あり。〔二〕鎧の名所。胴の半に附くる緒。

ひきあはす 引合(他動下二段) 二つのものを一つに寄する。

ひきあふ 引合(自動四段) 〔一〕賣買の相談をする。〔二〕勞力に對する丈の結果がある。

ひきあぐ 引上(他動下二段) 〔一〕今ある場所より高くする。〔二〕其場を去りて他へ移る。

ひきあて 引當(名) 抵當。

ひきあみ 引網(名) 多人數にて陸に引き上げ魚を取る網。

ひきざん 引算(名) 數を減らすために用ふる算術。●減法。

ひきぢさ 挽木(名) 挽臼の把手。

ひきぎり (名) 短慮。●氣みじか。●せっかち。(形)ーひきぎりなる。(副)ーひきぎりに。○源氏「さればよいと急にものし給ふ本性なり。此大臣もおとなくしうのどめたるところさすがになくいとひきぎりにはなやい給へる人々にて」

ひきめ 引目(名) 〔一〕矢の一種。鏃を丸く空虛にして三つ五つ穴を明けたるもの。犬追物、笠懸な

どに用ふ射る時風に觸れて強き響を發す。

ひきめのほふ（ヒ）　〔二〕蟇目の法。

蟇目法（名）　蟇目の矢を射て惡魔を退治する武道。祈禱の一法。

ひきめくり　蟇目劉（名）　蟇目を作る工人。

ひきし　低（形。形狀言ク活）　ひくしに同じ。

ひきじろふ（ヒ）　（他動四段）　〔一〕引き合ふ。〔二〕引きする。……（雅）

ひきしぼる　引絞（他動四段）　弓にいふ詞。十分に引き張る。

ひきしほ（カ）　引潮（名）　引き去る潮。

ひきひき　（副）　ひいきぐに。●おのくすきぐに。（雅）

ひきもの　（又）ひきくに。

ひきもの　彈物（名）　手にて彈くすべての樂器。琴、箏、琵琶、和琴の類。

ひきもの　引物（名）　〔一〕引出物。〔二〕特には饗膳に添へて別に出す魚類。菓子又は品物の稱へ。

ひきもの　挽物（名）　轆轤細工にしたるもの。

ひきずる　引摺（他動四段）　地に摺るやうに引垂らす。

ひきずみ　引墨（名）　手紙の封じ目に引く墨。今の〆の字の類。

ひゆ　冷（自動下二段）　つめたくなる。●冷やかになる。

ひめ　姫。媛（名）　〔一〕女子の美稱。〔二〕娘の尊稱。

ひめ　糒（名）　〔一〕柔かく炊きたる飯。……強飯に非ず粥に非ざる間のもの。即ち現今普通の飯。〔二〕ひめのりに同じ。

ひめい　碑銘（名）　石に刻みたる銘。

ひめい　非命（名）　不慮の變災にかゝりて死ぬる事。●變死。△（形）―非命なる。（又）非命の。（副）―非命に。

ひめい　悲鳴（名）　鳥獸などの悲しみ鳴く事。△（動）―悲鳴す。

ひめい　美名（名）　よき名。●好評判。

ひめとね　姫刀禰（名）　禁中に奉仕する女官の總稱。六位以上。

ひめかがみ　姫鏡（名）　女子の模範。

ひめがき　姫垣（名）　〔一〕小さき垣。〔二〕高垣の上に作り添へたる小垣。

ひめのり　糒糊（名）　飯にて作りたる一種の糊。

ひめまつ　姫松（名）　雌松。

ひめこまつ　姫小松（名）　雌松の子。

ひめぎみ　姫君（名）　令嬢の尊稱。●お姫樣。

ひめゆり 姫百合(名) 百合の一種。樺色の美しき花咲くもの。

ひめみや 姫宮(名) 皇女の尊稱。

ひめみこ 姫御子(名) 〔一〕皇女。●内親王。〔二〕女王。

ひめもり 姫盛(名) 飯の盛方の名。〔圖〕

ひめもす (副) 終日。●ひねもす。(又) ひめもすに。

ひみ 輝(名) ひゞの古言。

ひみつ 秘密(名) 隱して現はに知らせぬ事。●内證事。△(形)―秘密の。(副)―秘密に。

ひみづ 氷水(名) 飲料の氷水。

ひみづ 火水(名) 火と水と。

ひし 菱(名) 〔一〕池沼などに生ずる水草の名。葉は丸くして尖りあり花は小さくて白く實は鋭き稜あるもの。〔二〕菱の實に似たる形。正方形を少し押し平めたる形。

ひし 叉(名) 武器の名。さすまたの類。

ひし 簗(名) 漁具の名。竹棹に鉄の尖りたるものを付け魚を突き刺すもの。

ひじ 非時(名) 僧家にて午後の食事。……午前の食事を時といふに對して。

ひじ 美事(名) よき事。●褒むべき事。

ひしろ 樋代(名) 神社にて神體を入れ置く箱の稱へ。●みひしろ。

ひしと (副) たしかに。●ひまなく。●しかと。●みっしりと。

ひじり 聖(名) 〔一〕聖主。●聖天子。●天皇陛下。○萬葉「橿原のひじりの御代」〔二〕聖人。……堯舜孔子の類。〔三〕佛德の勝れたる僧。○源氏「目蓮が佛に近き聖の身にて」

ひじりことば 聖詞(名) 僧の使用する一種の言語。(源氏)

ひじりごころ 聖心(名) 僧の心。●僧にならんとする志。(源氏)

ひじりめ 聖目(名) 碁盤の目の稱へ。(徒然)

ひじる 聖(自動四段) ひじりになる。●ひじりの行をする。○砂石集「上人の子はいかにも智者にて聖なりと申せば。或人難じて父に似てひじるべからずと答へて比興す」

ひしほ 醬(名) 食品の名。味噌の類。

ひしほ 干汐(名) 引き汐。

ひしょ 秘書(名) 秘して世に出ださぬ書物。

ひしょ 避暑(名) 暑さを避くる事。

ひじゃうじゃう 非常(名) 〔一〕尋常ならざる事。●大變。〔二〕度に過ぐる事。●大そう。△(形)—非常なる。(又)—非常の。(副)—非常に。

ひじゃうじゃう 非情(名) 草木以下感覺の無き萬物。

びしょう 微傷(名) 少しの傷。

びしょう 美稱(名) 褒めたる名稱。

びせうしょう 微笑(名) ほゝゑむ事。●にこ〳〵する事。△(動)—微笑す。

びせうしょうねん 美少年(名) 容貌の美しき少年。

ひしょく 非職(名) 職務なくして。其官の籍にのみ在る事。

ひしづめのまつり 鎭火祭(名) 六月、十二月の晦日内裏の四方にて行はるゝ火災除の祭。

びじん 美人(名) 容貌の美しき女。●佳人。

びじんさう 美人草(名) 草の名。罌粟に似て少し小さく美しき花咲くもの。

ひしぐ 拉(他動四段) 押し碎く。●强く押し付くる。

ひしぐ 拉(自動下二段) 潰れて平たくなる。●碎くる。

ひしくひ 鴻(名) 水鳥の名。雁に似て大きく常に菱の實を好み食ふもの。

ひしゃ 飛車(名) 將棋の駒の名。縱横自在に飛び得るもの。

ひしゃく 柄杓(名) 水を汲み取る具。淺き筒に長き柄を付けたるもの。

びしゃもん 毘沙門(名) 佛教の守護神。四天王の一つ。甲冑して矛を執り北方を鎭するもの。又世俗七福神の一としても尊崇せらる。●多聞天。

ひじき 鹿尾菜(名) 海草の名。丸く細く黑くして食用となるもの。

ひしきもの (名) 引數物の略。◎數物。●敷蒲團。○夫木「松島や秋風寒き磯躰かな海士の刈る藻をひしきものにて」

ひしゅ 匕首(名) 短刀の一種。あひくち。●紐刃。

びしゅかつま 毘首羯磨(名) 古へ天竺にて佛像の彫刻に巧なりし人。

ひじゅつ 秘術(名) 秘傳の技術。

びじゅつ 美術(名) 自然の美妙を顯はす技術。繪畫、彫刻、建築、漆工、音樂、詩歌の類。

ひしめく 犇(自動四段) ひし〳〵と響く。●がや〳〵混雜して騷ぐ。

ひしひしと（副）〔一〕すみやかに。●すん〳〵と。○徒然「ひし〳〵と馴るゝ」〔二〕たしかに。●しかと。●ひまなく。●みっしりと。○「ひし〳〵と押し寄せたり」〔三〕板などの押し付けられて撓み鳴るやうの音。○「ひし〳〵と蹈み鳴らす」

ひしもち　菱餅（名）菱なりに切りたる餅。青と白とに作りて三月三日の雛祭に用ふるもの。

ひひ　狒狒（名）獸の名。猿に似て一層大きく深山に住むもの。

ひび　皸（名）寒氣のために生ずる皮膚の割れ目。あかゝりに似て細かきもの。

ひび（名）海中に立てゝ海苔を附着せしむる柴。

ひび　日々（副）毎日。又日々に。△（形）―日々の。

ひびこ　曾孫（名）孫の子。●ひこまご。

ひひとひ　日一日（副）其日朝より晩まで。●終日。○枕「日一日琴笛吹きあそび暮らして」

ひひる　蛾（名）〔一〕火取虫。〔二〕蠶の蝶。

ひひる　冲（自動四段）空に飛び行く。●あがる。

ひびかす　響（他動下二段）響かしむる。

ひひゃうヒョウ　批評（名）物事の善惡を評する事。●評論。●評判。△（動）―批評す。

ひびゃうヒョウぬん　避病院（名）傳染病者を入るゝ病院。

ひひさっうでん　非非想天（名）舞色界中四天の一つ。（佛教）

ひびつ　火櫃（名）火鉢の古名。

ひびらく（自動四段）〔一〕口を動かす。●しゃべる。〔二〕身を振ひ動かす。〔三〕堪へられぬ程痛む。

ひひらこのしま（名）みゝらくのしまに同じ。

ひびく　響（自動四段）〔一〕音が聞ゆる。●聞ゆる。〔二〕騷ぐ。〔三〕影響する。〔四〕評判する。〔五〕發音する。●詞の下に音の引く。〔六〕痛の染みわたる。○徒然「ひゞきて堪へがたかりければ」

ひびき　響（名）〔一〕響く事。●音響。〔二〕騷ぎ。〔三〕影響。〔四〕發音。●詞の後に引く母音。●韻。〔五〕評判。●取沙汰。

びびし　美々し（形。形狀言シク活）美し。●うるはし。●はでやかである。

ひも　紐（名）物を括るための緒。

ひもろぎ　胙（名）神を祭る供物。

ひもろぎ　神籬(名)　(一)神を祭る時榊など立てゝ假に神座として設けたるところ。(二)神社。

ひもと　火元(名)　火事の起りたる處。

ひもとく　紐解(自動四段)　花の綻ぶる。●咲く。

ひもとく　繙(他動四段)　卷物の紐を解く。●本を開き讀む。

ひもかはゞ　紐革(名)　細長く切りたる革。

ひもかがみ　紐鏡(名)　裏面に紐を附けたる小さき鏡。

ひもかがみ　氷面鏡(名)　氷の面を鏡に見立てゝいふ詞。

ひもがたな　紐刀(名)　紐を附けたる懷劍。

ひもたてのも　紐立裳(名)　飾の爲めに紐を廣く長く作れる裳。(大神宮儀式帳)

ひもの　干物(名)　(一)日に干し枯らしたるもの。(二)特に干したる魚。

ひもの　檜物(名)　(一)檜の薄板にて作りたる曲げ物。(二)曲げ物の總稱。

ひものし　檜物師(名)　檜物の細工を職とする人。

ひもじ　(形。形狀言シク活)　ひだるし。●空腹である。

びせい　美聲(名)　美しき音聲。

ひせん　被選(名)　選擧せらるゝ事。

ひぜん　皮癬(名)　病の名。疥癬。●しつ。

ひぜんやき　備前燒(名)　陶器の名。備前の國より產するもの。

ひせき　砒石(名)　砒素と硫黃と鐵との化合物にて劇しき毒性のもの。

ひぜめ　火攻(名)　燒酎。

ひぜめ　火責(名)　火に炙りて白狀さする一種の拷問。

ひす　比(他動サ變)　くらぶる。●比較する。

ひす　秘(他動サ變)　ひめる。●秘密にする。

ひすゐ　翡翠(名)　(一)鳥の名。そに。●かはせみ。(二)翡翠の羽。簪などの飾りに用ひて最も美しきもの。

ひすとる　短銃(名)　袖口に隱して持つべき小鐵砲。

ひずかし　嚣(形。形狀言シク活)　心のひすみたる。●心のねぢけたる。

ひずむ　(自動四段)　形の曲がる。●反れてゆがむ。

ひすまし　(名)　禁中又は貴人の家にて厠の掃除などする役の女。

ひすきも　鹿尾菜(名)　海草の名。ひじきの古言。